北翔大学

学生募集要項

2027

大学院

北翔大学大学院

臨床心理学研究科　臨床心理学専攻 修士課程

臨床心理学の専門家・心理援助職として、あらゆる世代の「こころの健康」に貢献する。

高度に精緻化され複雑化した現代社会において、臨床心理学の専門家や心理援助職に寄せられる期待はますます高まっています。本専攻では、心理支援を必要とする人のニーズに応え、ひいては広く国民の心の健康に貢献し得る、高度で専門的な心理臨床の知識と技術をもった人材を養成します。入学前に大学で指定科目を履修し終えている方は、公認心理師（国家資格）と臨床心理士の両方の受験資格を取得できる道が開かれています。

研究科長挨拶

〔臨床心理学研究科長〕

新川 貴紀

SHINKAWA Takanori

PROFILE

学　　歴：筑波大学大学院博士課程心理学研究科単位取得退学
学　　位：修士（心理学）
所属学会：日本心理学会、日本心理臨床学会、日本教育心理学会、日本学校メンタルヘルス学会、日本質的心理学会
社会的活動：北海道臨床心理士会副会長（教育領域担当理事兼務）、北海道スクールカウンセリング研究協議会代表、北海道いじめ問題審議会委員

本研究科の前身である人間福祉学研究科は、2001（平成 13）年、修士課程人間福祉学専攻に生活福祉学コースおよび臨床心理学コースの 2 コースを擁して設立されました。その後いくつかの組織改編のプロセスを経て、2024（令和 6）年 4 月、研究科名称を臨床心理学研究科へと改め、新たな一歩を踏み出しました。

本研究科は、心理学の基礎から応用に至る幅広い専門的知識と、科学的かつ実証的な分析力を基盤として、臨床心理学の高度な知識と技術を修得させるとともに、学術研究を通して対人援助の発展に寄与する新たな知見を創出する学術研究活動を行います。さらに、心の問題の背景にある生物・心理・社会的諸要因に対する総合的理解を深め、臨床心理学の専門的知識を涵養するとともに、心理アセスメント、心理療法・カウンセリング、心理教育などの心理臨床活動を的確に遂行し得る実践的能力の修得を目指します。これにより、保健医療、教育、福祉等の各領域において他職種と協働しつつ、福祉の理念を体現しながら臨床実践に従事できる人材を育成します。本研究科の教育の特色は、変化する社会情勢に即応する理論および方法論の修得にとどまらず、倫理観、実践的技能、そして豊かな人間性を含む総合的資質を高めることにあります。

本研究科では、国家資格である公認心理師ならびに長い歴史と実績を有する臨床心理士の双方の受験資格取得に対応したカリキュラムを整備しており、修士課程 2 年間を通じて、学内外における長期的かつ継続的な臨床実習に真摯に取り組むことは、不断の努力と強い志を要する営みでもあります。

こうした高度専門職養成を理論的に支える基盤として、状況的学習をあげることができます。状況的学習は、学習を個人の内的過程に還元するのではなく、実践の場における他者との相互作用や協働を通して生成される社会的過程として捉える立場です。とりわけ、Lave と Wenger（1991）が提唱した「正統的周辺参加（Legitimate Peripheral Participation）」の概念は、専門職養成を、実践共同体への参与と関係性の深化の過程として理解する理論的枠組みを提示しています。本研究科における演習、実習、事例検討、研究発表の諸活動は、まさにそのような実践共同体として構想されています。そこでは、大学院生が周辺的参加から次第に中心的参加へと歩みを進めると同時に、教員もまた固定的な「教える者」にとどまることなく、対話と省察を通して自らの実践を問い直し、学び続ける存在であると位置づけられます。教員と大学院生が時と場を共有し、相互に影響を与え合いながら知を創造していく営みそのものが、本研究科の教育・研究の核心です。この協働的な学びの積み重ねを通して、構成員一人ひとりが専門職としての確かなアイデンティティを形成し、困難な状況のなかにも意味を見いだしつつ、他者と社会に持続的に貢献し得る心理援助職へと成熟していくことを期待しています。

ディプロマ・ポリシー（学位授与方針）

(1) 基礎心理学の高度な専門的知識と科学的・論理的な視点、及び、臨床心理学の専門的知識や技法を偏りなく幅広く修得し、幅広い心理学の知識を心理に関する支援の実践に応用する能力を身に付けている。【知識・理解】
(2) 臨床心理学に関する研究課題を自ら設定し、高度の専門知識と適切な研究手法をもって研究することができる。【思考・判断】
(3) 生物・心理・社会の多次元にわたる広い観点から心理臨床活動を実践することができる。【関心・意欲・態度】
(4) 保健医療・教育・福祉等の様々な対人援助の領域で、他の職種と適切に連携するための口頭表現ないし文章表現の能力を身に付けている。【技能・表現】

カリキュラム・ポリシー（教育課程編成方針）

本専攻では、修了認定・学位授与の方針に掲げる能力を修得させるために、以下の内容、方法、評価の方針に基づき、教育課程を編成する。

【教育内容】
(1) 基礎心理学領域と臨床心理学領域の 2 領域を設定し、幅広い心理学の諸領域の専門性を高めるための科目群を設置している。
(2) (公財) 日本臨床心理士資格認定協会が認定する臨床心理士養成第 1 種指定校として、「臨床心理士」資格認定試験の受験資格を得るための教育内容を整備し、かつ、国家資格「公認心理師」の受験資格を得るために必要な指定科目を整備している。
(3) 臨床心理学領域の必修科目を中心に、選択必修科目の履修を通して、臨床心理学の高度な専門知識や技法を幅広く学び、加えて、基礎心理学領域の選択必修科目の履修を通して、科学的論理的な人間理解の視点を培う。
(4) 演習科目及び実習科目の履修を通して、心理援助職に求められる実践のスキルを体験的に学ぶ。臨床心理学研究科附属臨床心理センターでの研修及び学外実習施設での実習により、臨床現場を意識した活きた学びを積み重ね、多面的な心理臨床活動の実際を体験的に理解する。
(5) 必修科目「修士論文指導 Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ」の履修を通して、臨床心理学に関する研究能力を培う。

【教育方法】
(1) 講義においては、少人数の形態で、アクティブ・ラーニングを取り入れ、発表、ディスカッションを十分に行い、主体的な学びを促進する。
(2) ロールプレイ等による、臨床心理面接の技法の修得、心理検査器具等を用いた臨床心理査定の技法の修得の実技訓練を十分に行う。
(3) 2 年間を通じて、臨床心理センター及び学外実習施設での実習を長時間実施し、学内外の指導者によるスーパーバイズ及びフィードバックを十分に行う。
(4) 修士論文指導は、主査及び副査の 2 名の指導担当教員による個別指導に加えて、1 年次から研究計画及び研究進捗状況の発表の機会を設け、専攻の全教員が助言を行う。

【教育評価】
(1) 実習科目の評価は、外部実習施設の指導者による評価も成績評価検討の対象に含め、専攻教員全員で協議して決定する。
(2) 修士論文の評価は、提出された論文、修士論文発表会における口頭発表、質疑応答を成績評価検討の対象に含め、専攻教員全員による判定手続きによってこれを行う。

アドミッション・ポリシー（入学者受入方針）

本専攻では、次のような人材を求めている。
(1) 一人ひとりの尊厳を念頭に人間理解への深い関心をもち、広い視野にたつ心理援助職を目指す人。
(2) 保健医療・教育・福祉等の様々な領域で、チームの一員として活動できる専門性と社会性を備えた心理援助職を目指す人。
(3) 大学の学士課程で学ぶ心理学ないし臨床心理学の基礎的な知識を身に付けている人。
(4) 大学院修士課程で研究活動を進めていく際に必要とされる基本的な研究スキルを身に付けている人。
(5) 国内外の最新の学術情報を収集し活用するための外国語能力及びグローバル化社会に対応した情報リテラシー能力を身に付けている人。

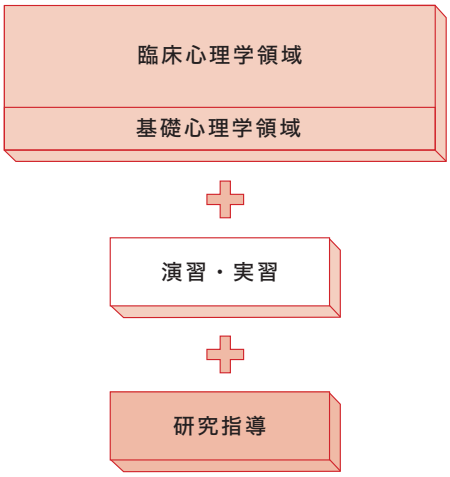
臨床心理学研究科　Graduate School of Clinical Psychology

臨床心理学専攻

修士課程

自分を知り、社会を知り、他者への心理的支援を考える。

優れた心理臨床家になるためには、基礎心理学を学び科学的・論理的な視点を持つとともに、福祉の理念と生活支援の観点を念頭に置き、臨床心理学の高度な理論と技術を柔軟に応用する力が必要です。本専攻のカリキュラムでは、心理臨床に関する幅広い知識を深く理解し探究するとともに、大学院附属の臨床心理センターや学外の病院・施設での実習を通して臨床現場を意識した実践力を身につけることができます。修了者は修士（臨床心理学）が授与されます。



学校、病院、社会福祉施設などの各臨床現場で、
他の専門職と連携し、
科学的な視点を持って
心理臨床活動に従事できる人材を育成。

取得できる資格

公認心理師（受験資格）

本専攻入学前に４年制大学で省令で定める科目を修得し、本専攻で省令に定める科目を修得することにより、心理職の国家資格として創設された公認心理師の受験資格を取得できます。

臨床心理士（受験資格）

本専攻は（公財）日本臨床心理士資格認定協会の第一種指定大学院であり、修了後、直近の臨床心理士資格認定試験を受験できます。

取得学位

修士（臨床心理学）

修了者に授与

予想される進路

●各種病院の心理職
●スクールカウンセラー
●各種社会福祉施設の心理相談員
●児童相談所の心理判定員
●家庭裁判所調査官（心理学）
●司法矯正施設の心理職
●教員（大学・専門学校等）
●教育委員会（教育相談員）など

修了後の進路　臨床心理学専攻（過去 10 年間）

●病院心理職…… 16 名
●福祉系機関心理職…… 17 名
●教育委員会……2 名
（臨床心理士、教育相談員）
●スクールカウンセラー…1 名
●大学教員……4 名
●高校教員……1 名
●司法・警察専門職……2 名

［令和８年度参考］

カリキュラム

区分	授業科目	
臨床心理学領域	●臨床心理学特論Ⅰ	[2]
	●臨床心理学特論Ⅱ	[2]
	●臨床心理面接特論Ⅰ（心理支援に関する理論と実践）	[2]
	●臨床心理面接特論Ⅱ	[2]
	○家族心理学特論（家族関係･集団･地域社会における心理支援に関する理論と実践）	[2]
	○司法・犯罪分野に関する理論と支援の展開	[2]
	○精神医学特論（保健医療分野に関する理論と支援の展開）	[2]
	○心身医学特論	[2]
	○障害者心理学特論（福祉分野に関する理論と支援の展開）	[2]
	○心理療法特論	[2]
	○学校臨床心理学特論（教育分野に関する理論と支援の展開）	[2]
	○コミュニティ心理学特論	[2]
	○産業・労働分野に関する理論と支援の展開	[2]
	○心の健康教育に関する理論と実践	[2]
基礎心理学領域	○心理学研究法特論	[2]
	○認知心理学特論	[2]
	○生理心理学特論	[2]
	○発達心理学特論	[2]
	○社会心理学特論	[2]
演習	●臨床心理査定演習Ⅰ（心理的アセスメントに関する理論と実践）	[2]
	●臨床心理査定演習Ⅱ	[2]
	○心理学特別演習	[4]
実習	●臨床心理基礎実習	[2]
	●心理実践実習Ⅰ	[4]
	●臨床心理実習Ⅰ（心理実践実習Ⅱ）	[8]
	●臨床心理実習Ⅱ	[1]
研究指導	●修士論文指導Ⅰ	[2]
	●修士論文指導Ⅱ	[2]
	●修士論文指導Ⅲ	[2]

●は必修科目［ ］内は単位数

〔研究科の修了要件〕
・修得単位数43単位以上
　＊必修13科目33単位及び、本学所定の選択必修科目10単位以上を修得
・臨床心理学研究科の行う修士論文の審査及び試験合格

臨床心理学専攻修士課程スタッフ

新川 貴紀 SHINKAWA Takanori

臨床心理学研究科長・教授

PROFILE
筑波大学大学院博士課程心理学研究科単位取得退学。修士(心理学)。公認心理師、臨床心理士。日本教育心理学会、日本心理臨床学会、日本学校メンタルヘルス学会等所属。現在、一般社団法人北海道臨床心理士会副会長(教育領域担当理事兼務)、北海道スクールカウンセリング研究協議会代表、北海道いじめ問題審議会委員。

主な研究テーマ及び概要
①心理臨床家を含む、対人援助職の成長に関する研究
②対人援助職の自己愛に関する研究
③被虐待児や発達障害を持つ子ども、及び支援者への支援に関する研究

飯田 昭人 IIDA Akihito

教授

PROFILE
大正大学大学院文学研究科福祉・臨床心理学専攻博士後期課程単位取得退学。修士(教育学)。北海道警察本部少年課において少年心理専門官を歴任した後、司法・教育・福祉の複数領域における心理支援の実践に携わってきた。公認心理師、臨床心理士。日本教育心理学会ほか、複数の学会に所属。現在、一般社団法人北海道臨床心理士会会長、北海道いじめ問題審議会会長を務め、行政機関における心理専門職の連携と政策形成に積極的に関与している。臨床実践と社会的実装の両面から、心理支援の在り方を探求している。

主な研究テーマ及び概要
①学校現場におけるいじめ・不登校問題に関する臨床的および制度的研究
②貧困が子どもおよび青年の心理社会的発達に及ぼす影響と、その支援に関する理論的・実践的研究
③SNSを介した対人交流が青年期の自己形成と心理的適応に与える影響の検討
④新型コロナウイルス感染症による大学生の心理的影響と支援のあり方に関する探索的研究
⑤対人援助専門職の熟達化プロセスとその促進要因に関する心理学的検討

小坂 守孝 KOSAKA Moritaka

教授

PROFILE
慶応義塾大学大学院社会学研究科博士課程単位取得退学。修士(社会学)。公認心理師、臨床心理士。日本心理臨床学会、日本コミュニティ心理学会、日本産業衛生学会等所属。

主な研究テーマ及び概要
①働く人への心理的支援としてのメンタルヘルス啓蒙活動・職場復帰支援
②青年期のライフイベントと予防的介入に関する研究
③コミュニティを対象とした心理的援助

澤 聡一 SAWA Toshikazu

教授

PROFILE
九州大学大学院人間環境学府人間共生システム専攻博士後期課程単位取得退学。修士(人間環境学)。公認心理師、臨床心理士。私立学校常勤スクールカウンセラー等を経て現職。日本心理臨床学会、日本心理学会等所属。

主な研究テーマ及び概要
①不登校の多機関連携による支援の研究
②思春期・青年期の子育て支援に関する研究
③心理教育・ピアサポート・居場所等の多面的援助アプローチを用いた支援実践に関する研究
④心理療法等における心的イメージに関する研究

入江 智也 IRIE Tomonari

准教授

PROFILE
北海道医療大学心理科学研究科博士後期課程修了。博士(臨床心理学)。公認心理師、臨床心理士。日本心理学会、日本認知・行動療法学会、日本認知療法・認知行動療法学会、日本不安症学会、日本学生相談学会等所属。

主な研究テーマ及び概要
①マインドフルネスを取り入れた認知行動療法を用いた支援に関する研究
②大学生の精神的健康の改善および促進を目指した支援に関する研究
③感情に影響を及ぼす認知行動的プロセスに関する研究
④嗜癖行動の維持に影響を及ぼす心理社会的要因に関する研究

河村 麻果 KAWAMURA Asaka

准教授

PROFILE
北海道医療大学心理科学研究科博士後期課程修了。博士(臨床心理学)。公認心理師、臨床心理士。日本心理学会、日本認知・行動療法学会、行動分析学会、睡眠学会等所属。

主な研究テーマ及び概要
①認知行動療法を実践するセラピストを養成するための訓練プログラム開発に関する研究
②働く人の援助要請行動を促進するためのシステム作りに関する研究
③認知行動療法セラピストが質の良い同盟関係を形成し、維持するための具体的な行動チェックリスト作成に関する研究
④セラピストとクライエント関係性を測定するための指標を開発するための研究

本阿彌 はるな HONAMI Haruna

准教授

PROFILE
北海道大学大学院教育学院博士前期課程修了、博士後期課程在学中。修士(教育学)。公認心理師、臨床心理士。医療・教育・福祉の領域で発達支援・子育て支援に20年余り携わり、その後現職。日本発達心理学会、日本心理臨床学会、日本小児心身医学会等所属。北海道臨床心理士会副会長(事務局長)、北海道児童青年精神保健学会理事、札幌市児童等に関する重大事態調査検討委員会委員。

主な研究テーマ及び概要
①組織における心理職の発達および心理支援の場のマネジメントについての研究
②早期療育を受けた経験が長期的に与える影響についての研究
③他者からの働きかけによる乳幼児期のジョイントアテンションの成立についての研究

小林 一彦 KOBAYASHI Kazuhiko

教授

PROFILE
山梨医科大学卒業　精神科医。日本認知症学会、日本リハビリテーション学会等所属。小学校で理科、中学校でクラス担任、理科そして高等学校で数学の教鞭をとる。その後医学部に進む。精神科病院で約25年臨床に携わると同時に看護、介護の専門学校や大学で精神医学及び精神保健学を担当する。2024年4月から本校に勤務する。

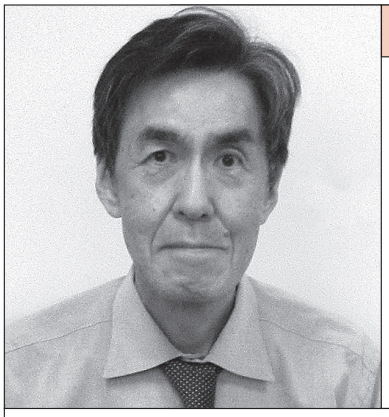
主な研究テーマ及び概要
①主な研究内容は、動物実験で、ストレスと海馬の萎縮及び5HT 1投与によるラットの自発行動の変化について
②Viktor Emil Frankl、人間における精神性について、ロゴセラピーについて
③精神疾患特に認知症、統合失調症の包括的アプローチについて
④睡眠とストレスによるこころの健康について

＊担当教員は予定であり、変更になることがあります。

生涯学習学研究科　生涯学習学専攻 修士課程

生涯学習を基盤に社会を創造する人材育成拠点：実践と研究で地域をデザインする研究科

人々の心身の健康と生きがいの実現に不可欠な生涯学習は、いま社会から強く求められています。本研究科は、全国初の生涯学習学の修士課程として、実践と研究の融合を中核に据えた教育を展開しています。地域の実情に即した学習の企画・立案・推進に加え、実践で得た知見を理論化し、再び現場へ還元する力を養います。課題解決型の学びを通して、地域に新たな価値を創造する高度専門人材を育成します。生涯学習を軸に、地域の未来を切り拓く担い手を目指しましょう。



研究科長挨拶

〔生涯学習学研究科長〕

三浦 公裕

MIURA Kimihiro

PROFILE

学　　歴：北海道教育大学大学院教育学研究科修士課程修了
学　　位：修士（教育学）
所属学会：日本教育心理学会、日本学校心理学会、日本学校心理士会、北海道学校心理士会、北海道臨床心理士会
社会的活動：北海道学校心理士会会長（北海道支部支部長）、江別市青少年健全育成協議会会長、北海道心理職職能団体連絡協議会会員、札幌市立いじめ重大事態調査派遣専門家、北海道スクールカウンセラー、一般社団法人学校心理士認定運営機構認定委員

生涯学習学研究科は、心身の健康増進と生きがいある人生の創造を目指す人々を支援するため、教育学・芸術学・心理学など人間科学の幅広い素養を基盤に、生涯学習の振興に資する高度な学識と実践的指導力を備えた専門家の養成を目的としています。近年、生涯学習は教育政策上の重要性を増し、とりわけ市町村では、まちづくりや豊かな生活を支える「人づくり」の中核として位置づけられています。

こうした社会的要請に応え、本研究科は実践と研究の統合を図りつつ、生涯学習を地域の政策課題として捉え、その企画・推進を担う資質と能力の育成に重点を置いています。あわせて、心理・福祉の視点を踏まえ関係機関と連携し、児童生徒を包括的に支援できる教員の養成が求められる中、現職教員の学修ニーズにも応え、実践経験の理論的整理と深化を通して専門職としての力量向上を支援します。

【本研究科の特色】

本研究科の特色は、以下の 4 点に集約されます。

1. 社会人の学びを支える柔軟な教育環境

近年の社会人・職業人の進学ニーズに応え、ICT 活用や柔軟なカリキュラムにより、仕事と研究を両立できる学修環境を整備し、多様な受講形態に対応しています。また、社会人学生と学部進学者が共に学ぶことで、実務経験と学術的知見が相互に作用し、多角的な視点を養います。こうした交流は、実践に根ざした理解の深化と新たな知の創出につながります。

2. 学際的研究による教育・研究の高度化

生涯学習は、教育学のみならず、心理学、芸術学、福祉学など多様な領域と密接に関連しています。こうした特性を踏まえ、専門分野の枠を越えた学際的な研究を推進しています。複合的な視点から地域や社会の課題にアプローチすることで、従来の枠組みにとらわれない新たな知見を創出し、大学院教育・研究の質の高度化を図るとともに、社会の持続的発展に寄与することを目指しています。

3. 高度専門職としての資質形成と資格取得

現代の教育課題には、専門知識に加え、現場での実践力と多職種連携の視点が不可欠です。本研究科では、学校教育・社会教育の臨床的場面で指導的役割を担う高度専門職の育成を重視しています。そのため、専修免許状[注1]や学校心理士資格[注2]の取得に対応した教育課程を整備し、理論と実践を相互に活かしながら専門性を高めます。なお、令和 9 年度入学者より、養護教諭専修免許状[注3]の取得に向けた体制整備を進めています。

4. 研究指導の充実と高度な研究能力の育成

体系的な授業履修に加え、指導教員による継続的・個別的な研究指導を重視しています。院生は自らの課題に基づき、修士論文または課題研究に取り組み、文献検討や調査・分析、考察などの研究手法を体系的に修得します。これにより、学術的妥当性の高い成果を導く力と専門分野における高度な研究能力を養い、実践の質を高める理論的基盤を確立します。

生涯学習をめぐる社会的背景と本研究科の役割

「人生 100 年時代」といわれる今日、生涯学習の重要性は一層高まっています。生涯学習は学校教育にとどまらず、家庭教育や社会教育、スポーツ・ボランティアなど広範な学びを含みます。こうした中、行政や教育機関、NPO、企業等による学習機会の提供と知的資源の社会還元が求められています。本研究科では、生涯学習学の教育・研究を通して、研究主題の設定力と方法論を修得し、その振興に寄与する専門職・研究者を養成しています。

修了生は、地域社会や教育現場で中核的役割を担い、社会の課題解決と活力ある地域づくりに貢献しています。教育現場、芸術文化施設、自治体、企業などで専門性を活かしながら、生涯学習の推進や人材育成、地域づくりに関わる実践に携わっています。さらに、研究者や大学教員として活躍する者や、事業創出に新たな価値を生み出す者もいます。また、専門性の一層の深化を目指し、博士課程へ進学する修了生も増加しています。

本研究科を目指す方には、本研究科で得られる知識と経験を力に、社会の多様な場で新たな価値を創出し続ける存在となることを期待しています。

注 1　幼稚園、小学校、中学校・高等学校（音楽・美術）、特別支援学校および養護教諭の専修免許状の取得が可能です。
注 2　一般財団法人日本学校心理士認定運営機構が認定する「学校心理士」の受験資格を得ることができます。
注 3　文部科学省における審査の結果、予定している教職課程の開設時期等が変更となる可能性があります。

ディプロマ・ポリシー（学位授与方針）

本研究科では、本学が定める期間在学し、所定の単位を修得するとともに、以下の高度な専門的能力を身に付けたと認められ、学位論文及び口頭試問（含む最終発表）の審査に合格した者に、修了を認定し、学位を授与する。

(1) 生涯学習の基盤となる教育学、芸術学、心理学など幅広い人間科学的素養を身に付けている。【知識・理解】
(2) 生涯学習にかかわる今日的な課題を解決するため、高度な学識と指導力を身に付けている。【知識・理解】
(3) 具体的な生涯学習に関する理論と実際の活動について、より深く教育･研究する実践的判断力を身に付けている。【思考･判断】
(4) 生涯学習の必要性を理解するとともにその発展に向け、学習要求に対し現実的に対応する態度を身に付けている。【関心･意欲･態度】
(5) 生涯学習活動を推進していく場面において、専門的、指導的立場で対応する能力を身に付けている。【技能・表現】

カリキュラム・ポリシー（教育課程編成方針）

生涯学習学研究科では、修了認定･学位授与の方針に掲げる能力を修得させるために、以下の内容、方法、評価の方針に基づき、教育課程を編成する。

【教育内容】
(1) 生涯学習の振興に資する専門職及び研究者育成の目的から、生涯学習学理論領域と生涯学習活動論領域の 2 つの領域から教育課程を編成している。
(2) 生涯学習学理論領域では、教育学、芸術学、心理学などを配置し、生涯学習学に関する基本的・専門的な教育・研究を行う。
(3) 生涯学習活動論領域では、文化芸術や教育分野などを中心に、美術・音楽指導や特別支援教育・障害者指導等の関連科目を配置し、生涯学習に関する実践的な活動を行う。

【教育方法】
(1) 生涯学習場面での実践事例をもとに、理論と方法を活用できるように学修をすすめる。
(2) フィールドワークやグループ討論などのアクティブ・ラーニングを積極的に取り入れ、主体的な学びをすすめる。
(3) 修士論文指導は、指導担当教員による個別指導のもと、1 年次の研究題目発表会、2 年次の中間発表会、そして最終の修士論文発表会へと継続・発展的にすすめる。

【教育評価】
(1) 成績評価についてはシラバスに明示し、提出課題の水準と意欲・態度を総合的に判断して行う。
(2) 修士論文の評価は、主査と副査（2 名）による口頭試問及び修士論文発表会での質疑応答も評価対象とし精査する。

アドミッション・ポリシー（入学者受入方針）

本研究科では、次のような人材を求めている。

(1) 生涯学習関連機関及び団体・企業等で、研究的知識や技能を身に付けた専門職として指導的な役割を目指す人。
(2) 生涯学習における様々な場面において、実践力や企画力などをもち生涯学習活動のリーダーを目指す人。
(3) リカレント教育の一環として、幼小中高及び特別支援学校教諭専修免許状や学校心理士等の資格取得を目指す人。

生涯学習学専攻

生涯学習学理論領域
生涯学習の振興に
関する理論的な研究

生涯学習活動論領域
生涯学習の振興の具体的な
活動に関する研究

地域における生涯学習を振興することのできる
資質・能力を身につけた研究者・上級職業人の育成。

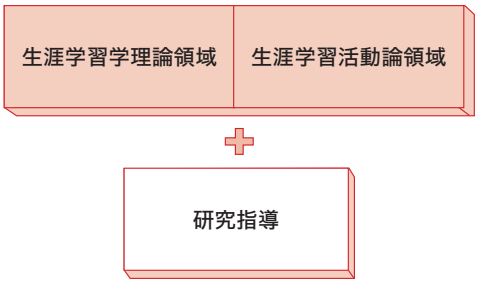
生涯学習学研究科　Graduate School of Lifelong Learning Support Studies

生涯学習学専攻

修士課程

高度で専門的な生涯学習振興を目指す。

本研究科では「生涯学習学理論領域」と「生涯学習活動論領域」の2つの領域で教育課程を構成しています。生涯学習の基盤である教育学、心理学といった人間科学的な素養の上に、具体的学習活動に関する理論と実践の関係についての教育研究や、社会教育、学校教育等の教育臨床現場において専門的、指導的立場で対応できる能力を身につけるための教育研究を深めていきます。本研究科修了者には修士（生涯学習学）の学位が授与されます。また、幼稚園・小学校・中学校・高等学校・特別支援学校・養護教諭の専修免許状を取得することができるほか、（一社）学校心理士認定運営機構が認定する「学校心理士」の受験資格が得られます。



取得できる資格

[1] 幼稚園・小学校・中学校・高等学校・特別支援学校教諭専修免許状に加え、あらたに養護教諭専修免許状[注1]

幼稚園教諭一種免許状、小学校教諭一種免許状、中学校教諭一種免許状（音楽・美術）、高等学校教諭一種免許状（音楽・美術）、特別支援学校教諭一種免許状（知的障害者・肢体不自由者・病弱者）を有している者は、教育職員免許法及び教育職員免許法施行規則に規定された科目を修得することにより、それぞれ当該免許状の専修免許状を取得することができます。なお、令和９年度入学者からあらたに養護教諭一種免許状を有している者に、専修免許状の取得に向けた体制準備を進めています。

注１ ただし、文部科学省における審査の結果、予定している教職課程の開設時期等が変更となる可能性があります。

[2] 学校心理士（受験資格、実務経験１年）

本研究科は、（一社）学校心理士認定運営機構が認定する「学校心理士」の受験資格を取得できる大学院です。

学校心理士は、各学校において知的障害や学習障害、学業不振や学校不適応、不登校やいじめなど、学校を取り巻く病理現象とその対応の仕方について正しい理解を持ち、専門的知見のある人です。今日、各学校においては、スクールカウンセラーの配置が計画化されており、その業務について対応できる資格です。また、今日の教育現場においては、現職の教職員に必要とされる資格であり、特に北海道においては「学校心理士」の養成が急務とされています。

取得学位

修士（生涯学習学） 修了者に授与

予想される進路

- ●幼稚園、小学校、中学校、高等学校、特別支援学校教諭
- ●児童養護施設職員
- ●児童自立支援施設職員
- ●家庭裁判所調査官
- ●スクールカウンセラー（学校心理士受験資格取得）
- ●生涯学習関連施設でのインストラクター
- ●医療・福祉施設での健康運動指導者
- ●公的・民間研究機関の研究者
- ●博物館、美術館などの学芸員
- ●公民館、図書館等職員・研究機関研究職
- ●大学・短期大学又は専修学校の教員、職員
- ●大学院博士課程進学、留学

修了後の進路　生涯学習学専攻（過去 10 年間）

- ●大学教員……3 名
- ●特別支援学校教諭……4 名
- ●幼稚園教諭……1 名
- ●小学校教諭（臨時含む）…3 名
- ●中学校教諭（臨時含む）…3 名
- ●高等学校教諭（臨時含む）2 名
- ●専門学校教員……5 名
- ●市町村職員……3 名
- ●公立学校スクールカウンセラー…1 名
- ●財団法人職員……1 名
- ●福祉施設職員……1 名
- ●大学事務職員……2 名
- ●研究所……1 名
- ●一般企業 ……13 名
- ●大学院博士課程……2 名
- ●大学院研究生……3 名
- ●進学（他）……3 名
- ●他（作家、起業） ……3 名

＊社会人特別選抜入学者を含む

［令和８年度参考］

カリキュラム

区分	授業科目	
生涯学習学理論領域	●生涯学習学特論 [2]	○教育課程研究特論 [2]
	○生涯学習行政特論 [2]	○保育原理特論 [2]
	○生涯学習計画特論 [2]	○教育心理学特論 [2]
	○生涯学習メディア特論 [2]	○学校心理学特論 [2]
		○生涯発達心理学特論 [2]
	○生涯学習環境特論 [2]	○臨床心理学特論 [2]
	○美学芸術学特論 [2]	○特別支援教育特論 [2]
	○デザイン学特論 [2]	○障害者心理学特論 [2]
	○教育学特論 [2]	○障害者心理学特別演習 [2]
	○教育指導特論 [2]	
	○道徳教育研究特論 [2]	○病弱教育研究 [2]
	○教育制度特論 [2]	○生涯学習行政論特別演習 [2]
	○教育経営特論 [2]	
	○教育方法特論 [2]	○心理検査特別演習Ⅰ [2]
	○教職研究特論 [2]	○心理検査特別演習Ⅱ [2]
		○学校心理学特別演習 [2]
生涯学習活動論領域	●生涯学習活動特論 [2]	○特別支援教育コーディネーター特論 [2]
	○研究方法論 [2]	
	○統計分析演習 [2]	
	○生涯学習施設運営特論 [2]	○特別支援教育コーディネーター実践論 [2]
	○生涯芸術特論 [2]	
	○生涯美術指導特論 [2]	○知的障害者指導特論 [2]
	○芸術鑑賞特論 [2]	○知的障害者指導特別演習 [2]
	○生涯音楽指導特論 [2]	
	○生涯学習活動特別演習（芸術Ⅰ） [2]	○肢体不自由者指導特論 [2]
	○生涯学習活動特別演習（芸術Ⅱ） [2]	○肢体不自由者指導特別演習 [2]
	○生涯学習活動特別演習（自然科学） [2]	○重複障害者指導特論 [2]
		○発達障害者指導特論 [2]
	○継続学習活動特別演習 [2]	○学校教育フィールドワーク（幼・小） [1]
	○生涯音楽指導特別演習（演奏指導） [2]	○学校教育フィールドワーク（中・高） [1]
研究指導	●生涯学習特別研究Ⅰ [2]	●生涯学習特別研究Ⅲ [2]
	●生涯学習特別研究Ⅱ [2]	●生涯学習特別研究Ⅳ [2]

●は必修科目［ ］内は単位数

〔研究科の修了要件〕
- 修得単位数32単位以上
  ＊必修6科目12単位及び、必修科目を除く全授業科目から20単位以上
- 生涯学習学研究科の行う修士論文の審査及び試験合格

生涯学習学専攻修士課程スタッフ

横山 光 YOKOYAMA Hikaru

副学長・教授

PROFILE
道内の小・中学校での理科教諭、道立教育研究所附属理科教育センター研究研修主事を経て平成26年度に本学教育学科准教授就任。令和２年度本学教授。洞爺湖有珠山ジオパーク学識顧問、日本火山学会学校教育委員長、ジオ・フェスティバル in Sapporo実行委員長。

主な研究テーマ及び概要
主な研究テーマは「科学コミュニケーション」と「自然災害教育」。科学者の研究成果を効果的に市民に伝える手法について、科学普及イベントや実験教室などの実践を通して研究している。特に地球科学領域については、江別市民を対象とした防災普及講演や、国内・海外の活火山地域における火山災害への理解を促す実験教材開発と減災教育活動を行っている。

三浦 公裕 MIURA Kimihiro

生涯学習学研究科長・教授

PROFILE
北海道内及び札幌市内の中学校で教育相談や特別支援教育のコーディネーターを務める。現在北海道学校心理士会の事務局を担当している。日本教育心理学会、日本学校心理学会等に所属。北海道公立学校スクールカウンセラー。学校心理士・公認心理師・上級教育カウンセラー。教育学修士。

主な研究テーマ及び概要
担当科目は「学校心理学特論」である。相談場面における生徒と教師の人間関係について研究を行っている。また学校現場やスクールカウンセラーの経験を生かし、学校心理学における心理教育的援助サービスに基づいた校内支援体制の構築について考察している。

浅井 貴也 ASAI Takaya

教授

PROFILE
専門はデザイン教育。企業や自治体、市民団体との協同を通して、次世代の芸術家育成に従事している。さらに15年間の海外留学経験を活かして、大学を始め地域の人々の国際性の涵養を目指した海外学術交流、海外研修や異文化交流イベント等の企画・運営にも携わっている。TEDxSapporoコ・オーガナイザー、レゴ®シリアスプレイ：メソッドと教材活用のファシリテーター、FORTHイノベーションメソッド認定ファシリテーター、芸術学修士(MFA)。

主な研究テーマ及び概要
誰もが生まれながらに持っている創造力を、日々の生活や仕事で発揮するための手法について研究している。企業や自治体、地域団体の人材育成、個人や集団による問題発見、解決支援など、モノ・コトづくりの思考をベースに様々なメソッドを活用したアプローチを研究している。

朝地 信介 ASACHI Shinsuke

教授

PROFILE
個展12回('05-'23)。主な展覧会として、鼓動する日本画('24・'23 ／ '19 ／ '18 ／ '14 ／ '13 網走, 札幌, 岩見沢, 岩内, 倶知安等)、Our Art Working ('17 ／ '18 Chicago, USA)、西安・北海道中日友好美術展('18 西安・咸陽, 中国)、韓・中・日 中堅作家美術交流展('15 珍島, 韓国)、VOCA展('10 上野の森美術館)、他多数。美術科教育学会、日本実践美術教育学会、日本美術教育連合、創画会(創画展)、北海道美術協会(道展)に所属。教育学修士。

主な研究テーマ及び概要
日本画制作法、および美術授業内容について研究。自身も日本画作家として制作・発表を続ける中で、『日本画とは何か』という問いを常に持ちながら、日本画や日本文化が伝統的に表してきたものを現在の形で表現できるように取り組んでいる。

小原 直哉 OBARA Naoya

教授

PROFILE
道立特別支援学校(視覚障害、知的障害、病弱)教諭・教頭、校長、北海道立特別支援教育センター研究員・室長・所長、北海道教育委員会特別支援教育課主幹・課長、北海道教育庁日高教育局長。令和４年度より本学の非常勤講師、令和６年度より本学教授。

主な研究テーマ及び概要
担当科目は、「生涯学習活動特論」「知的障害者指導特論」「重複障害者指導特論」等である。研究テーマは、視覚障害児や視覚障害を伴う重複障害児を対象として、視覚及びその他の感覚活用状況の把握と指導上の課題分析について取り組んでいる。

神守 一志 KAMIMORI Hitoshi

教授

PROFILE
北海道立教育研究所所員、檜山教育局指導主事、釧路教育局指導班主査、石狩教育局指導班主査、学校教育局義務教育課主査、留萌教育局教育支援課長、特別支援教育課主幹、義務教育課主幹、江別市立大麻東中学校長、後志教育局義務教育指導監、北広島市立大曲東小学校長、令和5年度より本学教授。

主な研究テーマ及び概要
担当科目は「教育制度特論」「教育課程研究特論」「生涯学習特別研究Ⅰ～Ⅳ」等である。研究テーマは、「通常の学級における支援が必要な子を含めた対応」「小中一貫教育」「ICTの効果的な活用」など、今日的な教育課題の研究に取り組んでいる。

上林 宏文 KANBAYASHI Hirofumi

教授

PROFILE
北海道立特別支援教育センター研究員・室長、北海道教育委員会特別支援教育課主査・主幹、北海道教育委員会教育指導監、道立特別支援学校(知的障害、聴覚障害、肢体不自由)校長。令和5年度より本学教授。

主な研究テーマ及び概要
担当科目は、「特別支援教育特論」「肢体不自由者指導特別演習」等である。研究テーマは、インクルーシブ教育システムの構築に向けた学校や関係機関等における連携・支援体制の整備、肢体不自由のある児童生徒のキャリア教育の充実、特別支援学校におけるカリキュラム・マネジメントの推進などに関する研究に取り組んでいる。

千里 政文 CHISATO Masafumi

教授

PROFILE
福祉環境アドバイザー（北海道)、一級建築士。日本建築学会、日本老年社会科学会、地域創成学会、北海道基督教学会に所属。芸術学修士。

主な研究テーマ及び概要
ユニバーサルデザインの視点に立ち、こどもから高齢者、障害者まで、多くの人が生涯使用できる「すまいづくり」「ものづくり」「まちづくり」について研究を行っている。特に住宅をはじめ、公共施設、こどもや高齢者の居住空間等の設計・アドバイスを通して実地踏査と分析を行っている。

松澤 衛 MATSUZAWA Mamoru

教授

PROFILE
東京都出身。北海道東海大学の職員を経て北海道東海大学大学院芸術研究科修了。プログラミングや映像関係のプロジェクトに多数参画。芸術学修士。

主な研究テーマ及び概要
主に、コンピュータを使用した映像表現についての研究を行っている。また、ネットワークにおけるWebサイトの表現技術の研究や、携帯端末を使ったコミュニケーションツールの研究、コンピュータと各種センサーなどをつなげ、アナログ世界とデジタル世界の融合表現の研究などにも取り組んでいる。

石塚 誠之 ISHIZUKA Masayuki

准教授

PROFILE
筑波大学大学院人間総合科学研究科 博士後期課程単位取得退学。千葉県スクールカウンセラー、日本学術振興会特別研究員ＰＤ(北海道教育大学 旭川校)、在中華人民共和国日本国大使館附属北京日本人学校スクールカウンセラー。教育学修士・心身障害学修士。学校心理士・ガイダンスカウンセラー。

主な研究テーマ及び概要
担当科目は「心理検査特別演習Ⅰ」「発達障害者指導特論」等である。研究テーマは、障害児心理学、障害児教育。「学習困難児の早期スクリーニング及び早期支援」、「在外教育施設における発達障害児支援体制の確立」、「発達障害幼児の保護者の障害受容」、「発達障害児のための幼保認小の連携」などの研究活動に取り組む。発達障害児者の特徴を臨床を通じて理解し、大きな視野で支援できる人材の育成に努めています。

杉浦 勉 SUGIURA Tsutomu

准教授

PROFILE
道内小学校(複式を含む)教諭、北海道教育大学附属小学校教諭を経て平成30年より専任講師として就任。令和５年本学准教授。日本道徳教育学会、全国社会科教育学会等に所属。教職修士(専門職)。

主な研究テーマ及び概要
担当科目は「道徳教育研究特論」等。主な研究テーマは、道徳教育・社会科教育・学級経営を中心とした初等教育の実践研究である。「主体性」をキーワードに、子供の主体的な学びを促す授業づくりや、人間理解を基盤とした学級づくりに関する研究に取り組んでいる。また、コーチングの視点を取り入れた学校教育における人材育成に関する研究も行なっている。

伏見 千悦子 FUSHIMI Chieko

准教授

PROFILE
全国大学音楽教育学会、日本教育学会、日本保育学会等に所属。芸術学士。リトミック国際サーティフィケイト及びリトミック国際ライセンス取得(ニューヨーク・ダルクローズ音楽学校)。北海道サービス管理責任者研修及び相談支援従事者研修修了。

主な研究テーマ及び概要
乳幼児、児童、障害児・者への音楽教育や音楽療育に関する実践的な研究活動を行っている。幼児教育・保育現場における領域「表現」の指導方法、教材開発のほか、幼保小接続など今日的課題の研究にも取り組んでいる。

山田 潮 YAMADA Ushio

准教授

PROFILE
道内の小学校(複式を含む)教諭、後志教育局指導主事、道立教育研究所研究研修主事、石狩市教育委員会生涯学習課参事、小・中学校教頭、日本生徒指導学会。教育学修士。令和5年度より本学准教授。

主な研究テーマ及び概要
担当科目は「教育方法特論」「教育経営特論」等を担当。
教科指導と生徒指導を一体化させた中で、主体的に考えたり、感じたりする体験や集団における人間的な交流を通して、他者受容感を味わいながらプラスの感情経験を得られるような実践研究に取り組んでいるほか、小中連携、一貫教育を進める上での組織体制、取り組み内容、保護者・地域住民の学校教育への参画意識の醸成等について研究している。

柏木 純子 KASHIWAGI Junko

講師

PROFILE
兵庫県立宝塚北高校演劇科卒業。日本大学芸術学部演劇学科演技コース卒業後、同大学院博士前期課程修了(芸術学修士)。大阪大学大学院文学研究科博士後期課程単位修得満期退学。日本演劇学会、ジャポニスム学会、表象文化論学会、国際演劇評論家協会会員。日仏演劇協会運営委員。

主な研究テーマ及び概要
学術研究として、19世紀フランス演劇におけるジャポニスムを専門としている。仏国立図書館・文書館・劇場資料室などに所蔵される一次資料から、当時の劇作品の創作、演出手法を分析し、仏演劇における日本文化受容を考察している。このほか、応用演劇学の実践研究として、医療分野におけるコミュニケーションの実技試験(OSCE)や高校生を対象とした演劇ワークショップに取り組む。

＊担当教員は予定であり、
変更になることがあります。

生涯スポーツ学研究科　生涯スポーツ学専攻 修士課程

スポーツ健康づくりの推進役を果たします。

本研究科は、北海道をはじめ氷雪寒冷圏域における生涯スポーツ社会の発展に向けて、
運動・スポーツや健康に関する学術的研究能力と専門的技能を修得し、
その指導的役割を担う人材の養成を目的としています。

研究科長挨拶

〔生涯スポーツ学研究科長〕

小坂井 留美

KOZAKAI Rumi

PROFILE

学　　歴：名古屋大学大学院医学系研究科健康社会医学専攻修了
学　　位：博士(医学)
所属学会：日本体力医学会(学術委員)、日本老年社会科学会(評議員)、日本公衆衛生学会、日本老年医学会、日本体育・スポーツ・健康学会　他
社会的活動：日本パラスポーツ協会強化本部情報・科学部会領域スタッフ

文部科学省が平成 24 年度に策定した「スポーツ基本計画」では、スポーツの果たす役割を踏まえ「スポーツを通じてすべての人々が幸福で豊かな生活を営むことができる社会」を創出するため、「年齢や性別、障害等を問わず、広く人々が、関心、適性等に応じてスポーツに参画することができる環境を整備すること」を基本的な政策方針としました。さらに、平成 29 年度に策定された「第 2 期スポーツ基本計画」では、2020 年東京オリンピック・パラリンピック競技大会を好機として、「スポーツ参画人口を拡大し、スポーツ界が他分野との連携・協同を進め、一億総スポーツ社会を実現する」ための具体的な政策目標が提示されています。こうした国の政策実現に貢献し得る研究の蓄積と有為な人材の養成を目指すことは高等教育機関として重要な社会的ミッションであることは言うまでもありません。

そのため、本学「大学院生涯スポーツ学研究科生涯スポーツ学専攻修士課程」では、生涯スポーツを「生涯にわたる各ライフステージにおいて、個人の興味・関心・年齢・体力等に応じて実施するスポーツ活動」と捉え、老若男女を問わず、また、健常者や障がい者を問わず、生涯にわたる各ライフステージで実施される運動・スポーツ活動を対象にした生涯スポーツ学の基礎的かつ実践的な教育研究を行うことを目的としています。具体的な研究対象は、幼年期における幼児体育、青少年期から成人期にかけての学校体育や競技性の強いスポーツ、壮年期から中年期・老年期における健康づくりや生きがいづくりを目標とした運動・スポーツ等を幅広く扱ってきています。研究分野は、スポーツ科学、健康科学、教育学などの分野からアプローチしています。

さらに、「大学院生涯スポーツ学研究科生涯スポーツ学専攻博士後期課程」では、生涯スポーツ学を「人の生涯の各ライフステージで継続的に実施され、様々な目的や興味・関心に基づいて行われる運動・スポーツの諸現象に対して、自然科学から人文・社会科学にわたるスポーツ科学の学際的研究アプローチによる基礎的・応用的・実践的研究」と定義し、それらを実施することにより、高度な専門的研究者や高度職業人（指導者）を養成することを設置の趣旨の骨子としています。具体的には、運動・スポーツに関する医学・生理学・バイオメカニクス・リハビリテーション学・栄養学・心理学等を主軸とする「スポーツ科学研究分野」と、生涯スポーツ学・老年学・健康科学・教育学等を主軸とする「生涯スポーツ学研究分野」による研究の専門化と融合を図り、それらの学際的な連携から生涯スポーツ学の高度化と専門性の深化を達成することを重視しています。

本学に設置された大学院生涯スポーツ学研究科（博士後期課程）は、東北以北で初めて博士号（スポーツ科学）を取得できる大学院であります。本学大学院修士課程からの進学はもとより、広く社会人で博士号取得を目指す方も、本学大学院生涯スポーツ学研究科（博士後期課程）での勉学に挑戦してください。

ディプロマ・ポリシー（学位授与方針）

北海道及び氷雪寒冷圏域において、豊かな生涯スポーツ社会を発展させるために、氷雪寒冷圏域に特有の気候環境的特徴をふまえ、スポーツ動作及びその上達過程を分析し理論化することができ【知識・理解】、氷雪寒冷圏特有の健康問題を正しく理解し、環境を生かした運動を含めた対処法について分析できる【思考・判断】。地域住民の健康維持・増進活動、スポーツ教育活動に貢献でき【関心・意欲・態度】、高度な専門性を身に付けて社会で指導的な役割を担える者【技能・表現】に対して学位を授与する。

カリキュラム・ポリシー（教育課程編成方針）

院生の学修・研究段階に応じて基礎的素養の涵養と専門的深化を実現できるよう、教育課程を「基礎教育領域」と「応用教育研究領域」の２階層構造で編成する。

「基礎教育領域」では、氷雪寒冷圏域を中心的対象とする生涯スポーツに関する科学的知識基盤を大学院レベルで構築する。「応用教育研究領域」でスポーツ科学と生涯スポーツ学の専門的素養を大学院レベルに特化・深化させる。

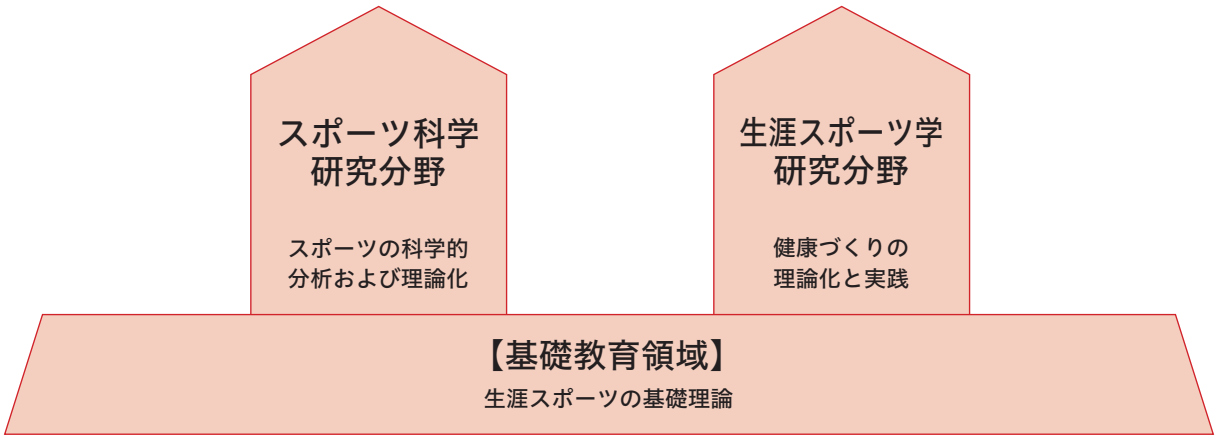
２領域の知識を統合させて、氷雪寒冷圏域の生涯スポーツの課題に対し科学的・専門的にアプローチする能力を修得させる。研究指導では、複眼的な指導・評価体制を構築するために院生１名につき指導・評価教員を各々２名以上配置するシステムを編成し、学位の質を保証する。

アドミッション・ポリシー（入学者受入方針）

運動やスポーツ、健康に関する学術研究や科学的知識及び専門的技能の修得に高い関心と熱意を持った人材を求める。生涯にわたるスポーツ活動の推進や健康の維持・増進、生涯スポーツの振興、指導者養成に対し、指導的な役割を担える人材を受け入れる。また、スポーツ競技者へのセカンドキャリア、コーチ・指導者へのリカレント教育、保健体育科教諭への教職専修免許状取得等の機会を提供する観点から、社会人の入学を積極的に受け入れる。

生涯スポーツ学専攻

【応用教育研究領域（２分野）】



北海道をはじめ氷雪寒冷圏域における生涯スポーツ社会の発展に向けて、
運動・スポーツや健康に関する学術的研究能力と専門的技能を修得し、
その指導的役割を担う人材の養成。

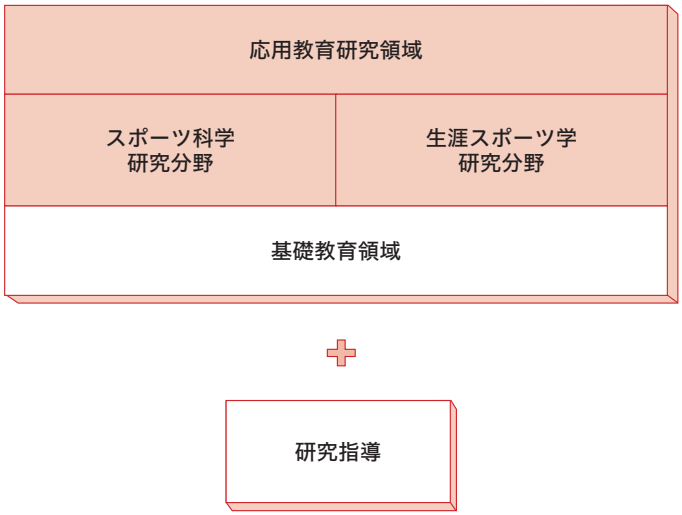
生涯スポーツ学研究科　Graduate School of Lifelong Sport

生涯スポーツ学専攻

修士課程

豊かな生涯スポーツ社会の発展に貢献する。

「スポーツ科学」、「生涯スポーツ学」の2つの視点によって、生涯にわたるスポーツ活動を理論体系化し、年齢層やスポーツ技量の違いなど、各対象に応じた質の高いスポーツ指導・支援が可能な人材を養成します。本専攻のカリキュラムは、「基礎教育領域」と「応用教育研究領域」の2階層構造からなり、「基礎教育領域」で氷雪寒冷圏域を中心的対象とする生涯スポーツや環境・スポーツ適応協関に関する科学的知識基盤を大学院レベルで構築、「応用教育研究領域」ではスポーツ科学、生涯スポーツ学の専門的素養を大学院レベルに特化・深化させます。修了者は修士(スポーツ科学)が授与されます。また中学校・高等学校教諭専修免許状(保健体育)を取得できます。



取得できる資格

中学校・高等学校教諭専修免許状（保健体育）

中学校教諭一種免許状（保健体育）、高等学校教諭一種免許状（保健体育）を有している者は、教育職員免許法及び教育職員免許法施行規則に規定された科目を修得することにより、それぞれ当該免許状の専修免許状を取得することができます。

取得学位

修士（スポーツ科学）

修了者に授与

予想される進路

●地域スポーツ振興を担う市町村職員および総合型地域スポーツクラブの職員・マネージャー
●医療施設・健康づくり施設の健康運動指導者
●中学校・高等学校の保健体育教諭
●学術研究を目指す博士後期課程進学
●大学等の高等機関教員や助手・研究機関研究員や助手など

［令和８年度参考］

カリキュラム

区分		授業科目	
基礎教育領域		●生涯スポーツ学特論	[2]
		●スポーツ生理学特論	[2]
		●リサーチ・デザイン特論	[2]
		○データ・アナリシス演習	[2]
		○人文社会科学特論	[2]
		○学校教育フィールドワーク	[1]
応用教育研究領域	スポーツ科学研究分野	○健康医科学特論	[2]
		○トレーニング科学特論	[2]
		○スポーツバイオメカニクス特論	[2]
		○アスレティックリハビリテーション特論	[2]
		○スポーツ栄養学特論	[2]
		○スポーツ心理学特論	[2]
		○スポーツコンディショニング特論	[2]
	生涯スポーツ学研究分野	○スポーツ社会学特論	[2]
		○休養・睡眠学特論	[2]
		○老年学特論	[2]
		○冬季スポーツ指導特論	[2]
		○アクアフィットネス特論	[2]
		○アダプテッドスポーツ特論	[2]
		○スポーツマネジメント特論	[2]
研究指導		●特別研究指導Ⅰ	[2]
		●特別研究指導Ⅱ	[2]
		●特別研究指導Ⅲ	[2]
		●特別研究指導Ⅳ	[2]

●は必修科目　［］内は単位数

〔研究科の修了要件〕
・修得単位数32単位以上
　＊必修7科目14単位及び、必修科目を除く全授業科目から18単位
・生涯スポーツ学研究科の行う修士論文の審査及び試験合格
・修士論文のテーマについて、全国規模の学術集会において1件以上の発表を実施すること（論文発表も可）

修了後の進路　生涯スポーツ学専攻（過去 10 年間）

●進学（博士課程）……１名
●進学（教職大学院）……１名
●医療施設職員 ……10 名
●中学校教諭……1 名
（保健体育：正規）
●中学校教諭……2 名
（特別支援学級：正規）
●中学校教諭……3 名
（保健体育：臨時）
●高等学校教諭
（保健体育：正規）……1 名
（保健体育：臨時）……2 名
●特別支援学校教諭……4 名
（保健体育：正規）
●小学校教諭
（正規）……1 名
（臨時）……1 名
●北海道警察……1 名
●一般社団法人職員……1 名
●高等学校職員……1 名
●特別支援学校職員……1 名
●専門学校教員……1 名
●大学講師（非常勤）……2 名
●スポーツ施設運営職員…3 名
●スポーツトレーナー(非常勤)…１名
●児童通所支援センター…1 名
●民間企業(実業団選手ほか)…5 名
●私立大学助手……1 名
●私立大学
アスレティックトレーナー…1 名
職員（非常勤）……1 名
●スポーツ庁専門職……1 名

＊社会人特別選抜入学者を含む

生涯スポーツ学専攻修士課程スタッフ

山本 敬三 YAMAMOTO Keizo

副学長・教授

PROFILE
1974年に山口県に生まれる。北海道大学へ入学し、2004年12月に北海道大学大学院工学研究科システム情報工学専攻にて博士後期課程を修了。博士(工学)。日本体育・スポーツ・健康学会、日本バイオメカニクス学会等の学会、冬季スポーツ科学研究会や臨床歩行分析研究会等に所属。2007年12月にオーストリアで行われた第４回国際スキー会議(ICSS2007)にて、「スキージャンプ・テイクオフ動作の空気力学的解析」を発表し、若手研究者賞(２位)を受賞。現在はスキージャンプを対象とした力学測定や学術セミナーを積極的に行い、現場のサポート活動を行っている。

主な研究テーマ及び概要
スキージャンプやクロスカントリースキー等の冬季スポーツを主な研究テーマとし、バイオメカニクスおよび流体力学的な手法でアプローチしている。派生的に、身体運動の左右対称性や運動学習に関する研究にも取り組んでいる。大学院生の研究テーマでは、身体運動の力学的メカニズムを明らかにした上で、効率的なトレーニングや指導方法について考察したい。

小坂井 留美 KOZAKAI Rumi

生涯スポーツ学研究科長・教授

PROFILE
名古屋大学大学院医学系研究科(健康社会医学専攻)単位取得後退学。博士(医学)。国立長寿医療センター疫学研究部予防疫学室長(2006-2009)。フィンランド・ユバスキュラ大学外来研究員(2009-2012)。健康運動指導士。日本体力医学会、日本体育・スポーツ・健康学会、日本老年医学会、日本老年社会科学会、日本公衆衛生学会、ヨーロッパスポーツ科学学会等所属。

主な研究テーマ及び概要
①中高年者における運動機能・身体活動量の加齢変化とその維持向上に関する研究
②高齢期までの運動習慣形成に関わる運動歴と心身機能要因に関する研究
③高齢者における心身機能の低下予防に向けた実践的研究
④冰雪寒冷地域における生涯スポーツの現状と特徴についての研究
生涯を通じて人々が活動的であることを目指し、中高年者の身体機能や生活習慣を経年的に観察して加齢変化の関連要因を探索すること、運動の実践を働きかけその効果を検証することを行っている。

沖田 孝一 OKITA Koichi

修士課程専攻主任・教授

PROFILE
博士(医学)。主な資格:総合内科専門医、循環器専門医、日本スポーツ協会公認スポーツドクター、日本医師会認定健康スポーツ医、日本医師会認定産業医。所属学会:日本臨床運動療法学会(副理事長)、日本心臓リハビリテーション学会(評議員)、日本体力医学会(評議員)、札幌市スポーツ協会(理事)、米国生理学会、米国スポーツ医学会、日本循環器病学会、日本臨床スポーツ医学会、日本内科学会など。

主な研究テーマ及び概要
北海道大学大学院医学研究科にて「慢性心不全における運動耐容能」をテーマに研究を開始し、「慢性心不全における骨格筋代謝異常の研究」を発展させ、一流国際医学雑誌であるCirculation (1998)、American Journal of Cardiology (1998)などに論文を掲載した。また「生活習慣病と運動療法」においてもバイオマーカーを視点に運動療法の有効性を検討した論文をArterioscler Thromb Vasc Biol (2004)に掲載し、その業績を評価され、平成18年7月に日本心臓リハビリテーション学会第2回木村登賞を授与された。平成16年4月より教授として教育および運動生理学的研究に従事し、多数の優秀な人材を輩出している。

井出 幸二郎 IDE Kojiro

教授

PROFILE
1992年福岡大学体育学部卒業、1994年福岡大学大学院体育学研究科修了、1995年～2000年コペンハーゲン大学筋肉研究所、2001年～2004年カルガリー大学医学部呼吸生理学研究科、研究員。日本体力医学会、日本体育・スポーツ・健康学会、日本トレーニング科学会、アメリカ生理学会、日本トレーニング指導者協会、日本SAQ協会、会員。

主な研究テーマ及び概要
近年は吸入ガス濃度をコントロールする研究手法により、低酸素や高炭酸ガスに対する脳血管の反応性と体力との関連性について研究している。将来的には低酸素や高炭酸ガスに対する脳血管の反応性と加齢による認知機能の低下、体力との関連性についての研究に発展させる。本学には、簡易低酸素・高酸素トレーニング室及び高温トレーニング室があり、これらを用いた研究も可能である。現在用いている主な研究手法は、多チャンネル近赤外線分光装置、吸入ガス調整器、心拍変動(HRV)、認知心理学実験装置、血圧脈波検査装置、体温データロガー他

小田 史郎 ODA Shiro

教授

PROFILE
北海道大学大学院教育学研究科博士後期課程修了。博士(教育学)。日本睡眠学会、日本体力医学会、日本生涯スポーツ学会、北海道体育学会所属。

主な研究テーマ及び概要
①良好な睡眠を得るための運動方法および生活処方に関する研究
②運動が睡眠を悪化させる条件に関する研究
③北方圏在住者の身体活動量と睡眠の季節差に関する研究
④北方圏在住者の季節性気分障害並びに生活習慣病に対する身体運動の有効性について
以上のテーマについて、生理学的実験と疫学調査から実証的に研究を進めている。生理学的実験では睡眠ポリグラフ(脳波、眼球運動、筋電図)や身体活動量(アクティグラフ、ライフコーダ)によって睡眠を客観的に評価し、さらに心拍数、心臓自律神経機能、体温、ホルモンといったデータから、睡眠変化が生じたメカニズムについて追究している。疫学調査では質問紙法を用い、生活習慣病や季節性気分障害との関連性もふまえながら身体活動と睡眠の関係について研究している。

髙田 真吾 TAKADA Shingo

教授

PROFILE
1985年に福島県に生まれる。北海道大学大学院医学研究科博士課程修了(成績優秀のため短縮修了)。博士(医学)。所属学会:日本体力医学会評議員、米国生理学会、米国スポーツ医学会、米国心臓病会議、日本循環器病学会、日本体力医学会、日本心臓リハビリテーション学会、国際心臓研究会日本部会、日本臨床運動療法学会。

主な研究テーマ及び概要
北海道大学大学院医学研究科にて「慢性疾患における運動能力・骨格筋異常とその治療法の開発」に関する研究を基礎・臨床の両面から発展させ、一流国際医学雑誌であるCirculation (2018)、Cardiovasc Research (2016, 2020)、Cell Communication & Signaling (2019)、Skeletal Muscle (2020)、Front Cardiovasc Med (2020)等に多数論文を掲載した。その業績を評価され、日本循環器学会、日本心臓リハビリテーション学会、日本体力医学会から多数の受賞および助成金を授与された。また、運動のトレーニング効果における「運動・筋収縮由来サイトカイン(マイオカイン)の役割や機序解明」を通じて、“human biology”の研究を展開する。

瀧澤 聡 TAKIZAWA Satoshi

教授

PROFILE
札幌医科大学大学院保健医療学研究科博士後期課程修了。博士(作業療法学)。札幌市立小学校通級指導教室教諭等の約20年の現場経験有。
日本特殊教育学会、日本ＬＤ学会、北海道特別支援教育学会等所属。北海道特別支援学会理事、日本シェルボーン・ムーブメント協会会長(国際シェルボーン協会インストラクター)。

主な研究テーマ及び概要
発達障害等のある子どもへの運動発達支援、運動制御論による障害のある児童の「不器用さ」の解明、シェルボーン・ムーブメントセラピーのプログラム開発・評価・効果研究等。専門分野は、特別支援教育で、障害のある児童生徒・成人に関する運動領域を中心に研究活動を行っているが、この領域での「信念対立解明アプローチ」の適用や「障害者スポーツ哲学」の構築にも関心がある。

竹田 唯史 TAKEDA Tadashi

教授

PROFILE
北海道大学大学院教育学研究科 博士後期課程 単位取得退学。博士(教育学)。
日本体育・スポーツ・健康学会、日本スキー学会(理事)、日本体育科教育学会。Asia Association of Coaching Science (理事)。

主な研究テーマ及び概要
スポーツにおける指導方法に関する研究を行っている。スポーツ指導場面における運動観察・評価方法や、誰もが容易に確実に上達できる指導プログラムを作成する研究である。主にスキー運動を中心に研究を進めているが、他の多くのスポーツ種目の指導にも応用可能である。特にスキー選手の体力・トレーニング・指導方法に関する研究を中心に進めている。

永谷 稔 NAGATANI Minoru

教授

PROFILE
愛知県出身、愛知教育大学卒業、愛知教育大学大学院教育学研究科体育学専修修了。修士(教育学)、南山大学体育センター助手を経て、現職。北海学園大学大学院経営学研究科修了。博士(経営学)。日本体育・スポーツ・健康学会、日本体育スポーツ経営学会、経営哲学学会、しごと能力研究学会、日本バレーボール学会、北海道体育学会、日本オリンピック委員会強化スタッフ、日本バレーボール協会アンチドーピング委員会、全日本大学バレーボール連盟強化委員等。

主な研究テーマ及び概要
体育・スポーツ経営学を専門とし、スポーツ集団やチーム、組織のマネジメントについて研究する。主な研究対象は、学校運動部活動、クラブチーム、プロスポーツチーム、フィットネスクラブやスポーツクラブ、総合型地域スポーツクラブである。ヒト・モノ・カネ・トキといったリソースをマネジメントし、よりよい成果をもたらすために何をすべきか、主にアンケート調査を中心に影響要因から探るものである。

＊担当教員は予定であり、変更になることがあります。

花井 篤子 HANAI Atsuko

教授

PROFILE
立教大学社会学部卒業後、筑波大学大学院修士課程体育研究科（コーチ学専攻）を経て、筑波大学大学院博士課程体育科学研究科（体育科学専攻）修了。博士（体育科学）。日本水泳・水中運動学会、日本体育・スポーツ・健康学会、日本体力医学会、日本生理人類学会、日本世代間交流学会等所属。

主な研究テーマ及び概要
①水泳・水中運動を活用した中高齢者の運動処方に関する研究
②アクアフィットネスを活用した多世代間交流プログラムに関する研究
③氷雪寒冷地域における生涯スポーツや健康維持増進を目的とした運動処方に関する研究
④泳力向上のための競泳トレーニングに関する研究

スポーツ科学や応用健康科学的な観点から、競泳などの競技スポーツや水泳・水中運動処方などについて、生理学的実験や心理テストなどを用いて分析・探求し、パフォーマンス向上に及ぼす要因の解明や運動効果などについて研究を行っている。

吉田 真 YOSHIDA Makoto

教授

PROFILE
札幌医科大学大学院保健医療学研究科博士課程後期修了。博士（理学療法学）。日本スポーツ協会公認アスレティックトレーナー、理学療法士。日本アスレティックトレーニング学会、日本臨床スポーツ医学会、日本体力医学会。

主な研究テーマ及び概要
①スポーツ外傷・障害の発生機序の運動学的分析
②スポーツ外傷・障害の発生に関わる危険因子の要因分析
③スポーツ外傷・障害の予防方策に関する介入研究

ヒトの体は発達成長あるいは生活様式や取り組んでいる活動様式に応じて形態変化する。ヒトの体において各々課せられた機能を果たすために、それ相応の形態に適応し、ある形態を持っているからこそ特定の機能を果たすことができると言える。この様な観点からスポーツ活動がヒトの形態および機能に及ぼす影響について探求し、スポーツ外傷・障害の予防に寄与するコンディショニングやアスレティックトレーニングに関する実践研究を行っている。

吉田 昌弘 YOSHIDA Masahiro

教授

PROFILE
札幌医科大学大学院保健医療学研究科理学療法学・作業療法学専攻スポーツ理学療法分野博士課程後期修了。博士（理学療法学）。日本アスレティックトレーニング学会、日本臨床スポーツ医学会、日本整形外科スポーツ医学会、日本理学療法士協会所属。

主な研究テーマ及び概要
スポーツ外傷の予防を目指し、スポーツ症例のバイオメカニクス的研究や筋の形態変化の特徴に関する研究を行っている。また、競技者のコンディションを定量評価することを目的に、フィールドレベルでの体力特性評価の実践や、新たな測定方法の考案に関する研究も進めている。

畝中 智志 UNENAKA Satoshi

准教授

PROFILE
大阪府出身。鹿屋体育大学体育学部卒業後、鹿屋体育大学大学院体育学研究科修士課程（体育学；スポーツ心理学専攻）修了。特別支援学校常勤教諭を経て、鹿屋体育大学大学院体育学研究科博士後期課程（体育学；スポーツ心理学専攻）修了。博士（体育学）。杏林大学医学部統合生理学教室博士研究員（2015-2017）。日本スポーツ心理学会、日本スポーツメンタルトレーニング指導士会、日本体育・スポーツ・健康学会、日本バスケットボール協会所属。

主な研究テーマ及び概要
体育・スポーツ心理学を専門とし、研究を行っている。予測、身体性意識、運動学習、熟達化、知覚-運動制御などについて実験を行い、パフォーマンス向上に寄与する要因の解明、知覚トレーニングの考案を進めている。また、スポーツメンタルトレーニング指導士の資格を有し、スポーツ競技に関わる個人・チームへの心理サポートなどのフィールドレベルへの介入も行っている。

黒田 裕太 KURODA Yuta

准教授

PROFILE
2006年に鹿屋体育大学卒業後、スポーツ栄養学の道へ。2010年に天使大学を卒業。2019年に北海道大学大学院教育学院博士課程を修了（教育学）。資格は、中・高等学校教諭一種免許状（保健体育）、管理栄養士など。2011年より北海道テニス協会強化本部にてジュニア選手の強化事業に携わる。また、2018年は北海道日本ハムファイターズ主催の食育講座、2019年からは、日本テニス協会toto助成事業にて日本テニス協会医科学委員との共同でスポーツ栄養学の講師を務める。所属学会は、日本体力医学会、日本スポーツ栄養学会、日本テニス学会、日本スポーツパフォーマンス学会、日本栄養改善学会。

主な研究テーマおよび概要
アスリートおよび運動愛好者の競技パフォーマンスに貢献するためにスポーツ栄養学的観点から研究を実施している。アスリートおよび運動愛好者は、日常的に身体活動量が多い方が多い。身体活動量が多いと言うことは、そうでない人と比較して栄養素を多く摂取すること、その摂取量が適切かどうかを判断する必要がある。また、運動時には、体温上昇に伴い発汗が生じる。その発汗により身体から水分や栄養素が失われ、人間のパフォーマンス（脳活動や筋力など）に様々な負の影響を与える。その結果、運動時に競技パフォーマンスの低下を引き起こす可能性がある。これらの問題点の改善に貢献できるような知見をスポーツ現場へ還元することを目的としている。

＊担当教員は予定であり、変更になることがあります。

入 学 試 験 要 項〈修士課程〉

募集研究科・専攻・人員・修業年限

研究科	専攻	人員（第1・2期合計）	修業年限	備考
臨床心理学研究科	臨床心理学専攻	4名	2年	＊人員には、学内推薦入学制度・社会人特別選抜入学制度・外国人留学生特別選抜入学制度による人員若干名を含みます。 ＊社会人特別選抜入学制度は、生涯学習学専攻・生涯スポーツ学専攻で実施します。 ＊外国人留学生特別選抜入学制度は、生涯スポーツ学専攻で実施します。
生涯学習学研究科	生涯学習学専攻	6名		
生涯スポーツ学研究科	生涯スポーツ学専攻	6名		

【1】各種入学制度

1. 一般試験入学制度

（1）出願資格［臨床心理学研究科・生涯学習学研究科・生涯スポーツ学研究科共通］

下記のいずれかに該当する者。

①学校教育法第83条の大学を卒業した者、または令和9年3月までに卒業見込みの者。

②学校教育法第104条第7項により学士の学位を授与された者、または令和9年3月までに授与される見込みの者。

③外国において、学校教育における16年の課程を修了した者、または令和9年3月までに修了見込みの者。

④外国の大学等において、修業年限が3年以上の課程を修了することにより、学士の学位に相当する学位を授与された者、または令和9年3月までに授与される見込みの者。

⑤専修学校の専門課程（修業年限が4年以上であることその他の文部科学大臣が定める基準を満たすものに限る）で文部科学大臣が別に指定するものを文部科学大臣が定める日以後に修了した者、または令和9年3月までに修了見込みの者。

⑥文部科学大臣の指定した者。

⑦大学に3年以上在学し、所定の科目、単位を優れた成績をもって修得したものと本大学院が認めた者。

⑧その他、大学を卒業した者と同等以上の学力があると本大学院が認めた者で、令和9年3月31日までに22歳に達する者。

＊⑦または⑧に該当する者は、出願資格認定審査が必要となります（P16の【6】出願資格認定審査参照）。

（2）出願期間・選抜試験日・合格発表日・入学手続締切日

期	インターネット出願期間	出願書類必着日	選抜試験日	合格発表日	第1次入学手続締切日（入学金）	第2次入学手続締切日（入学金以外の納付金・手続書類）
第1期	令和8年9月16日(水)～10月6日(火)	10月 7日（水）	10月18日（日）	11月1日（日）	12月17日（木）	令和9年3月24日（水）
第2期	令和9年1月18日(月)～ 2月7日(日)	2月 8日（月）	2月21日（日）	3月7日（日）	3月24日（水）	

（3）選抜方法および基準

筆記試験、口述試験結果および出願書類を総合評価し、合否を判定します。

科目	専攻・内容		配点
英語	全専攻	英文和訳（英和辞書持込可・電子辞書不可）	100点
専門科目	臨床心理学専攻	「心理学」・「臨床心理学」	200点
	生涯学習学専攻	「生涯学習学」及び「生涯学習活動領域（教育学、芸術学、自然科学のいずれかの視点で論じること。）」	200点
	生涯スポーツ学専攻	「生涯スポーツ学基礎」	200点
口述試験	臨床心理学専攻	「基礎的な学力」、「学問的意欲」、「修士論文への計画性」等を確認します。 また、研究計画書・アドミッションポリシーに関する口頭試問等を含みます。	200点
	生涯学習学専攻		200点
	生涯スポーツ学専攻		300点

（4）選抜試験日程

研究科	選抜試験日程	時間
臨床心理学研究科 生涯学習学研究科 生涯スポーツ学研究科	諸注意・連絡	9：20～ 9：30
	英 語	9：30～11：00
	休 憩	11：00～11：20
	諸注意・連絡	11：20～11：30
	専門科目	11：30～13：00
	昼食・休憩	13：00～13：50
	諸注意・連絡	13：50～14：00
	口述試験（終了次第解散）	14：00～

（5）出願手続

出願方法	インターネット出願 本学ホームページ受験生サイト（https://www.hokusho-u.ac.jp/admission/）のインターネット出願ページ（Post@net）から出願登録をしてください。
入学検定料	30,000円 入学検定料は、出願登録時に選択した方法で納入してください（振込手数料は別途必要です）。 可能な支払方法 ①「コンビニエンスストア決済」 ②「クレジットカード決済」 ※支払方法の詳細はP28～をご確認ください。 ※本学卒業生および本学卒業見込者ならびに本学卒業生子女の方は免除します。出願前にアドミッションセンターまでお申し出ください。

出願書類	①入学志願票 ・本学インターネット出願ページ（Post@net）より各自で印刷し郵送してください。 ②写真データ ・3 ヶ月以内に撮影したものを本学インターネット出願ページ（Post@net）からアップロードしてください。 ③成績証明書 ④卒業（修了）証明書または卒業（修了）見込証明書 ⑤履歴書 ・本学受験生サイトから本大学院所定の用紙をダウンロードし、入力後印刷の上、郵送してください。 ⑥研究計画書 ・本学受験生サイトから本大学院所定の用紙をダウンロードし、入力後印刷の上、郵送してください。 ・研究テーマ、研究目的、研究課題に至った経緯、研究計画、引用文献等を入力してください。 ⑦長期履修申請書 ・長期履修制度を希望する方は、本学受験生サイトから「長期履修申請書」を印刷し、記入の上、郵送してください。（P16 の【7】長期履修制度参照） ※③および④は、出願資格として該当する学歴の証明書を郵送してください。 ※③および④の書類の氏名が、改姓等により現在の氏名と異なる場合は、改姓の事実が証明できる書類を郵送してください。

2. 社会人特別選抜入学制度

（1）出願資格

研究科・専攻	出願資格
［生涯学習学研究科］ 生涯学習学専攻 ［生涯スポーツ学研究科］ 生涯スポーツ学専攻	下記のいずれかに該当し、入学時点で 2 年（24 ヶ月）以上の社会人経験を有する者。 ①学校教育法第 83 条の大学を卒業した者。 ②学校教育法第 104 条第 7 項の規定により学士の学位を授与された者。 ③外国において、学校教育における 16 年の課程を修了した者。 ④外国の大学等において、修業年限が 3 年以上の課程を修了することにより、学士の学位に相当する学位を授与された者。 ⑤その他、大学を卒業した者と同等以上の学力があると本大学院が認めた者で、令和 9 年 3 月 31 日までに 22 歳に達する者。

＊現職の方には、個別に履修相談に応じます。
＊上記⑤のみに該当する者は、出願資格認定審査が必要となります（P 16 の【6】出願資格認定審査参照）。

（2）出願期間・選抜試験日・合格発表日・入学手続締切日

期	インターネット出願期間	出願書類必着日	選抜試験日	合格発表日	入学手続締切日（入学金以外の納付金・手続書類）
第 1 期	令和 8 年 9 月 16 日（水）～ 10 月 6 日（火）	10 月 7 日（水）	10 月 18 日（日）	11 月 1 日（日）	令和 9 年 3 月 24 日（水）
第 2 期	令和 9 年 1 月 18 日（月）～ 2 月 7 日（日）	2 月 8 日（月）	2 月 21 日（日）	3 月 7 日（日）	

（3）選抜方法および基準

口述試験結果および出願書類を総合評価し、合否を判定します。
口述試験内容および配点は P14 を参照してください。

（4）選抜試験日程

日程	時間
諸注意・連絡	13：50 ～ 14：00
口述試験（終了次第解散）	14：00 ～

＊ 13：45 までにアドミッションセンターへ集合してください。

（5）出願書類

上記の出願書類の他に「所属長の推薦書（様式任意）」を提出してください。

（6）入学検定料

P14 の入学検定料を参照してください。

3. 外国人留学生特別選抜入学制度

（1）出願資格

研究科・専攻	出願資格
［生涯スポーツ学研究科］ 生涯スポーツ学専攻	日本国以外の国籍を有し、下記のいずれかに該当する者。 ①外国において、学校教育における 16 年の課程を修了した者、または令和 9 年 3 月 31 日までに修了見込みの者。 ②外国の大学等において、修業年限が 3 年以上の課程を修了することにより、学士の学位に相当する学位を授与された者、または令和 9 年 3 月 31 日までに授与される見込みの者。 ③学校教育法第 83 条の大学を卒業した者、または令和 9 年 3 月卒業見込みの者。 ④その他、大学を卒業した者と同等以上の学力があると本大学院が認めた者で、令和 9 年 3 月 31 日までに 22 歳に達する者。

＊④に該当する者は、出願資格認定審査が必要となります（P16 の【6】出願資格認定審査参照）。

（2）出願期間・選抜試験日・合格発表日・入学手続締切日

期	インターネット出願期間	出願書類必着日	選抜試験日	合格発表日	第 1 次入学手続締切日（入学金）	第 2 次入学手続締切日（入学金以外の納付金・手続書類）
第 1 期	令和 8 年 9 月 16 日（水）～ 10 月 6 日（火）	10 月 7 日（水）	10 月 18 日（日）	11 月 1 日（日）	12 月 17 日（木）	令和 9 年 3 月 24 日（水）
第 2 期	令和 9 年 1 月 18 日（月）～ 2 月 7 日（日）	2 月 8 日（月）	2 月 21 日（日）	3 月 7 日（日）	3 月 24 日（水）	

（3）選抜方法および基準

口述試験結果および出願書類を総合評価し、合否を判定します。
口述試験内容および配点は P14 を参照してください。

（4）選抜試験日程

日程	時間
諸注意・連絡	13：50 ～ 14：00
口述試験（終了次第解散）	14：00 ～

＊ 13：30 までにアドミッションセンターへ集合してください。

（5）出願書類

上記の出願書類の他に、追加資料の提出が必要となります。
P30 の外国の国籍を有する方の出願書類を参照のうえ、
出願受付開始前にアドミッションセンターまでお問い合わせください。
［TEL.011-387-3906（直通）］

（6）入学検定料

P14 の入学検定料を参照してください。

【2】出願上の注意

①出願書類は、出願書類必着日までに届くよう郵便局の窓口から「速達・簡易書留」で郵送してください。
②出願後の志望専攻の変更はできません。
③出願書類はいかなる場合も返還しません。
④不備・不足のある場合は受け付けできませんので、出願書類の確認は十分行ってください。

【3】受験票について

①受験票は、本学インターネット出願ページ（Post@net）へログインし、出願内容一覧より本学の「出願内容を確認」からダウンロードし、各自で印刷して選抜試験日に持参してください。
※受験票の発行は出願書類必着日以降になります。受験票を発行しましたら、メールにてお知らせします。なお、出願者全員の受験票を一括で発行するため、時間を要する場合がございます。
②選抜試験日までに準備できない場合は、アドミッションセンターまでお問い合わせください。

【4】受験上の注意

①試験会場は北翔大学です。アクセス、および案内図は、裏表紙を参照してください。
②試験会場の下見は、選抜試験前日の 12:00～15:00 までです。
③受付時間は、8:30 から開始します。
④試験開始後 30 分以上遅刻した場合は、原則として受験できません。
⑤昼食は各自で用意してください。
⑥学校保健安全法施行規則で出席停止が定められている感染症（インフルエンザ、新型コロナウイルス感染症等）にかかり、試験当日までに学校保健安全法施行規則による出席停止期間を経過していない方は受験をご遠慮ください。また、試験当日の体調不良により、試験の続行が困難であると本学が判断した場合、試験を中断することがあります。体調管理には十分ご注意ください。

【5】合格発表日

①選抜の結果は、合否にかかわらず本人宛に文書で通知します。
また、インターネット出願ページ（Post@net）から合否結果を照会することができます。
②大学内掲示・ホームページでの発表はいたしません。電話・メールでのお問い合わせには応じておりません。
③入学手続者の状況により、繰上げ合格を認めることがあります。対象者には、合否通知の際に補欠番号を通知します。
④合否通知は、天候等により遅れる場合があります。
⑤合格通知とともに入学手続書類を送付します。必要な書類を提出し、学費等納付金を期日までに納入してください。

【6】出願資格認定審査

各種入学制度の出願資格において、本大学院の認定を必要とする方は、出願に先立ち事前に出願資格の認定審査を行います。出願資格認定審査申請書を希望する方は、アドミッションセンターへ申請前にお問い合わせください。

申請期間／第１期：令和８年 8月18日（火）～ 8月26日（水）
第２期：令和８年11月17日（火）～ 11月25日（水）
提 出 先／北翔大学 アドミッションセンター
提出書類／①出願資格認定審査申請書
②最終出身学校の卒業証明書および成績証明書
＊②の書類の氏名が、改姓等により現在の氏名と異なる場合は、改姓の事実が証明できる書類の提出が必要です。
＊提出書類はいかなる場合も返還しません。
結果通知／第１期：令和８年 9月11日（金）
第２期：令和８年12月11日（金）

【7】長期履修制度

長期履修制度とは、職業を有している等の事情により、定められた修業年限では大学院の教育課程の履修が困難な者に限り、標準修業年限 2 年間を超え、3 年間または 4 年間で修学するものです。
本制度の授業料と施設設備費は、一般学生 2 年間の総額を履修期間が認められた期間で除した金額です。差額が生じる場合は、最終年次で調整いたします。（P17 の【9】納付金参照）
希望する方は、本学受験生サイトから「長期履修申請書」を印刷し、記入の上、出願書類とともに提出してください。
＊ただし、臨床心理学研究科では実施しておりません。

【8】入学検定料の返還について

入学検定料の返還ができるのは、次の 3 つの場合です。出願が受理されている場合は、払込済の入学検定料は返還しません。
1. 入学検定料を払い込んだが、出願しなかった（出願書類等を提出しなかった）場合
2. 入学検定料を払い込んだが、出願が受理されなかった場合
3. 入学検定料を二重に払い込んだ場合

なお、返還に伴う振込手数料は差し引かせていただきます。

【9】納付金

令和９年度１年次学費

入学制度	研究科	専攻	内訳	前学期 入学手続時	後学期 9月30日	初年度合計
一般試験	臨床心理学研究科 生涯学習学研究科 生涯スポーツ学研究科	臨床心理学専攻 生涯学習学専攻 生涯スポーツ学専攻 （一般学生２年）	入　学　金	200,000 円	- 円	200,000 円
			授　業　料	290,000 円	290,000 円	580,000 円
			施設設備費	110,000 円	110,000 円	220,000 円
			合計	600,000 円	400,000 円	1,000,000 円
		生涯学習学専攻 生涯スポーツ学専攻 （長期履修学生３年）	入　学　金	200,000 円	- 円	200,000 円
			授　業　料	193,400 円	193,400 円	386,800 円
			施設設備費	73,400 円	73,400 円	146,800 円
			合計	466,800 円	266,800 円	733,600 円
		生涯学習学専攻 生涯スポーツ学専攻 （長期履修学生４年）	入　学　金	200,000 円	- 円	200,000 円
			授　業　料	145,000 円	145,000 円	290,000 円
			施設設備費	55,000 円	55,000 円	110,000 円
			合計	400,000 円	200,000 円	600,000 円
社会人特別選抜	生涯学習学研究科 生涯スポーツ学研究科	生涯学習学専攻 生涯スポーツ学専攻 （一般学生２年）	入　学　金	免除	- 円	- 円
			授　業　料	145,000 円	145,000 円	290,000 円
			施設設備費	55,000 円	55,000 円	110,000 円
			合計	200,000 円	200,000 円	400,000 円
		生涯学習学専攻 生涯スポーツ学専攻 （長期履修学生３年）	入　学　金	免除	- 円	- 円
			授　業　料	96,700 円	96,700 円	193,400 円
			施設設備費	36,700 円	36,700 円	73,400 円
			合計	133,400 円	133,400 円	266,800 円
		生涯学習学専攻 生涯スポーツ学専攻 （長期履修学生４年）	入　学　金	免除	- 円	- 円
			授　業　料	72,500 円	72,500 円	145,000 円
			施設設備費	27,500 円	27,500 円	55,000 円
			合計	100,000 円	100,000 円	200,000 円
外国人留学生特別選抜	生涯スポーツ学研究科	生涯スポーツ学専攻 （一般学生２年）	入　学　金	200,000 円	- 円	200,000 円
			授　業　料	290,000 円	290,000 円	580,000 円
			施設設備費	110,000 円	110,000 円	220,000 円
			合計	600,000 円	400,000 円	1,000,000 円

○本学卒業生および本学卒業見込者の入学金は免除になります（社会人特別選抜入学制度で入学する者は該当しません）。
○長期履修学生の授業料と施設設備費は、一般学生２年間の総額を長期履修が認められた期間で除した金額です。差額が生じる場合は、最終年次で調整いたします。
○２年次以降の学費は、初年度学費合計から入学金を除いた金額となりますが、経済情勢などの変動により改定されることがあります（社会人特別選抜入学制度は、令和９年度以降も改定しません）。
○本学以外から入学された大学院生で下記に該当する場合は、学費等の一部を入学後の申請により返還いたします（社会人特別選抜入学制度で入学する者は該当しません）。
・本学卒業生の子息・息女、兄弟姉妹、孫、父母の入学金の全額、および同窓会費の半額
・本学在学生の兄弟姉妹、父母、子息・息女の入学金の全額、および同窓会費の半額
・兄弟姉妹が本学に同時に入学した場合は、一人分を除いた入学金の全額、および一人分を除いた同窓会費の半額

＊本学とは北翔大学、北翔大学大学院および北翔大学短期大学部です（旧名称も含みます）。

○下記の特定科目履修者については、履修登録時に別途実験実習料を納付していただきます。

専攻	特定科目名	実験実習料	備考	
臨床心理学専攻	臨床心理基礎実習・心理実践実習Ⅰ	35,000 円	１年次	臨床心理士・公認心理師 受験資格指定実習
	臨床心理実習Ⅰ（心理実践実習Ⅱ）・臨床心理実習Ⅱ	55,000 円	２年次	

＊上記実験実習料の金額については、実験費用などの上昇および履修規程の改正などにより変更する場合があります。

○その他の経費

		学生教育研究災害傷害保険料および学研災付帯賠償責任保険料	同窓会費（終身）	合計
一般試験	一般学生２年	2,430 円（２年間分）	40,000 円	42,430 円
	長期履修学生３年	3,620 円（３年間分）	40,000 円	43,620 円
	長期履修学生４年	4,660 円（４年間分）	40,000 円	44,660 円
社会人特別選抜	一般学生２年	2,430 円（２年間分）	20,000 円	22,430 円
	長期履修学生３年	3,620 円（３年間分）	20,000 円	23,620 円
	長期履修学生４年	4,660 円（４年間分）	20,000 円	24,660 円
外国人留学生特別選抜	一般学生２年	2,430 円（２年間分）	40,000 円	42,430 円

＊本学卒業生および本学卒業見込者は、同窓会費を納付する必要はありません。

■学生教育研究災害傷害保険及び学研災付帯賠償責任保険の保険金額

補償区分及び保険金額		教育研究活動中	
		正課中・学校行事中	課外活動・学校施設間移動・学校施設にいる間・通学特約
傷害保険（本人）	死亡	2,000 万円	1,000 万円
	後遺障害	程度に応じて 120 万～ 3,000 万円	程度に応じて 60 万～ 1,500 万円
	入院日額（１日につき）	4,000 円（180 日を限度）	
	通院（治療日数）	治療日数１日から対象	・学校施設にいる間／通学中／学校施設間移動　4 日以上 ・課外活動（クラブ活動）　14 日以上
		治療日数とは実際に入院または通院した日数	
賠償責任保険	学生（被保険者）が他人にケガを負わせた場合、他人の財物を損壊した場合等により、法律上の損害賠償責任を負担することによって被る損害に対する補償（対人と対物賠償合わせて１事故につき１億円限度）		

＊学生教育研究災害傷害保険（学研災）および学研災付帯賠償責任保険は、入学時の加入により、保険期間中に生じた教育研究活動中の不慮の事故による傷害や損害賠償について、上記の保険金が支払われる制度です。ただし、状況によっては保険金の支払い対象にならない場合があります。

【10】入学手続締切日

期	第１次入学手続締切日（入学金）	第２次入学手続締切日（入学金以外の納付金・手続書類）
第１期	令和８年12月17日（木）	令和９年３月24日（水）
第２期	令和９年３月24日（水）	

＊既納の入学金は返還しません。
＊第２次入学手続締切後に入学を辞退する場合は、所定の入学辞退届により申し出てください。申し出の期限は令和９年３月31日（水）午後５時までとします。この申し出が受理された後、既に納付された令和９年度１年次前学期納付金のうち入学金を除いた金額を返還します（令和９年４月末日予定）。

生涯スポーツ学研究科　生涯スポーツ学専攻 博士後期課程

・氷雪寒冷圏域における生涯スポーツ社会の発展に向けた研究拠点
・冬季スポーツの競技力向上、氷雪寒冷圏域における生涯スポーツ推進を担うプロフェッショナルを養成
・高度な専門的知識、課題設定能力、科学的分析能力、情報発信能力を総合的に修得

研究科長挨拶

〔生涯スポーツ学研究科長〕

小坂井 留美

KOZAKAI Rumi

PROFILE

学　　歴：名古屋大学大学院医学系研究科健康社会医学専攻修了
学　　位：博士(医学)
所属学会：日本体力医学会(学術委員)、日本老年社会科学会(評議員)、日本公衆衛生学会、日本老年医学会、日本体育・スポーツ・健康学会　他
社会的活動：日本パラスポーツ協会強化本部情報・科学部会領域スタッフ

文部科学省が平成 24 年に策定した「スポーツ基本計画」では、スポーツの果たす役割を踏まえ「スポーツを通じてすべての人々が幸福で豊かな生活を営むことができる社会」を創出するため、「年齢や性別、障害等を問わず、広く人々が、関心、適性等に応じてスポーツに参画することができる環境を整備すること」を基本的な政策方針としました。さらに、平成 29 年に策定された「第 2 期スポーツ基本計画」では、2020 年東京オリンピック・パラリンピック競技大会を好機として、「スポーツ参画人口を拡大し、スポーツ界が他分野との連携・協同を進め、一億総スポーツ社会を実現する」ための具体的な政策目標が提示されています。こうした国の政策実現に貢献し得る研究の蓄積と有為な人材の養成を目指すことは高等教育機関として重要な社会的ミッションであることは言うまでもありません。

「大学院生涯スポーツ学研究科生涯スポーツ学専攻博士後期課程」は、生涯スポーツ学を「人の生涯の各ライフステージで継続的に実施され、様々な目的や興味・関心に基づいて行われる運動・スポーツの諸現象に対して、自然科学から人文・社会科学にわたるスポーツ科学の学際的研究アプローチによる基礎的・応用的・実践的研究」と定義し、それらを実施することにより、高度な専門的研究者や高度専門的職業人(指導者)を養成することを目的として設置されました。具体的には、修士課程での学びを基礎としたスポーツ科学、生涯スポーツ学の 2 分野を、博士後期課程では、運動・スポーツに関する医学・生理学・バイオメカニクス・リハビリテーション学・栄養学・心理学等を主軸とする「スポーツ科学研究分野」と、生涯スポーツ学・老年学・健康科学・コーチ学・教育学等を主軸とする「生涯スポーツ学研究分野」の 2 分野へと、さらなる研究の専門化と融合を図り、相互の学際的連携から生涯スポーツ学研究の高度化と専門性の深化を達成することを重視しています。指導スタッフも、これらの研究領域に精通した研究者を配置し、特に、本学博士後期課程で期待される冬季スポーツの科学的サポートや積雪寒冷地域での健康づくりと生涯スポーツ科学に関した研究に対応できる研究指導体制を重点的に確立しています。

本学に設置された大学院生涯スポーツ学研究科（博士後期課程）は、東北以北で初めての博士号（スポーツ科学）を取得できる大学院であります。本学大学院修士課程からの進学はもとより、広く社会人で博士号取得を目指す方も、本学大学院生涯スポーツ学研究科（博士後期課程）での勉学に挑戦してください。

ディプロマ・ポリシー（学位授与方針）

北海道をはじめ氷雪寒冷圏域における豊かな生涯スポーツ社会の発展に向けて、スポーツ科学・生涯スポーツ学に関する高度な専門的知識を修得し、課題設定能力、科学的分析能力、情報発信能力を備え、研究成果が国内外で認められた者、当該分野で指導的な役割を担える者に学位を授与する。

カリキュラム・ポリシー（教育課程編成方針）

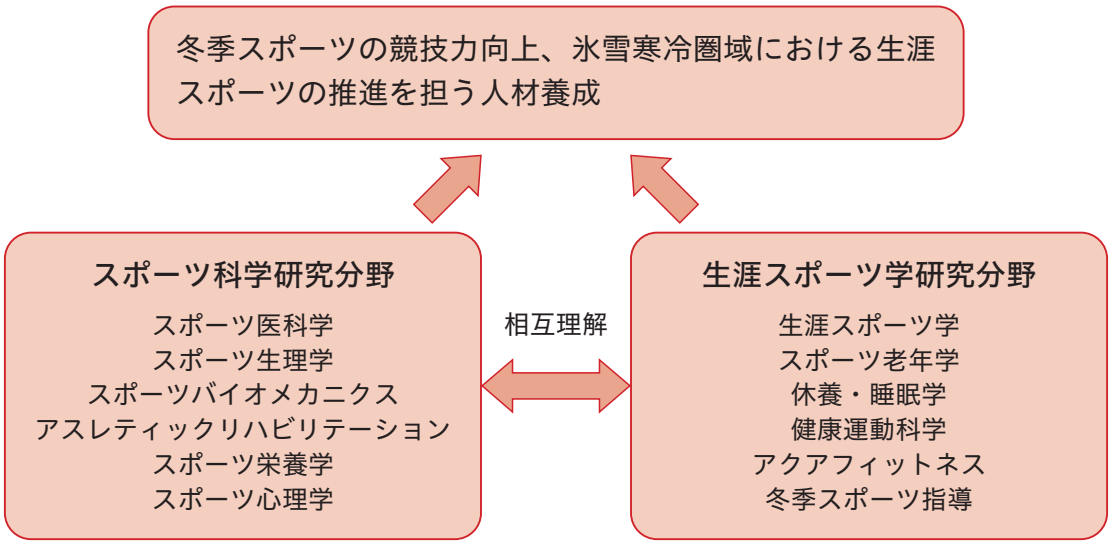
院生の研究能力を専門的に深化できるよう、教育課程を共通科目、専門科目及び研究指導科目の 3 領域で構成する。

共通科目では、国際的な研究能力を身につけるため、英文読解と作文能力及びプレゼンテーション能力を養う。専門科目はスポーツ科学研究分野と生涯スポーツ学研究分野の 2 分野で編成される。スポーツ科学研究分野では、運動生理学やバイオメカニクス、トレーニング科学などの研究手法を修得し、冬季スポーツ種目を中心とする競技スポーツの科学的分析・研究能力を養う。生涯スポーツ学研究分野では、応用健康科学、生涯スポーツ学、スポーツ教育学などの研究手法を用いて、地域住民の健康問題の解決や生涯スポーツの振興に貢献できる研究能力を養う。研究指導科目では、複眼的な指導・評価体制で実施し、修業年限内に博士論文を完成できるよう段階的に構成する。

アドミッション・ポリシー（入学者受入方針）

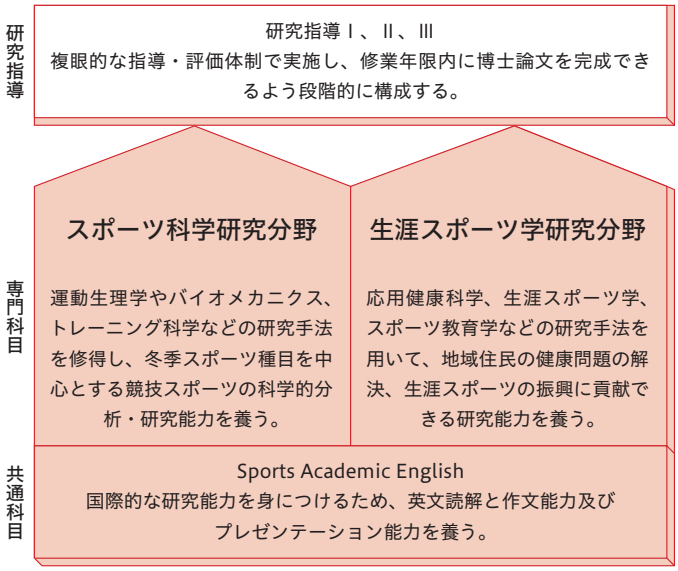
運動やスポーツ、健康に関する学術研究や科学的知識及び専門的技能を有する人材を求める。スポーツを科学的に分析する能力を有する人材や、生涯スポーツ活動の推進や健康増進のための研究能力を有する人材を受け入れる。また、博士後期課程の研究を遂行するために必要な英語能力を有すること。なお、スポーツ競技者へのセカンドキャリア、コーチ・指導者へのリカレント教育、保健体育科教員の高度専門化の観点から、社会人の入学を積極的に受け入れる。

博士後期課程の研究分野



生涯スポーツ学専攻 博士後期課程

豊かな生涯スポーツ社会の発展に貢献する。



修了要件

1）必修 4 科目 14 単位と選択 1 科目 2 単位を含む合計 16 単位以上を修得すること
2）学位授与審査に合格し、博士論文が受理されること
3）博士論文の提出要件：
①筆頭著者として査読付き論文の掲載が 2 編以上決定されていること
②国際学術会議での研究発表を 1 回以上行っていること

取得学位

博士（スポーツ科学）：Doctor of Philosophy in Sport Sciences

予想される進路

・大学・研究所等での研究職
・国立スポーツ科学センター（JISS）や都道府県設置の医科学センターにおける研究員
・プロ・実業団スポーツチームにおけるコーチ
・動作分析・戦術アナリスト
・研究用計測機器を製造・販売する企業の専門的研究技術職
・地域スポーツ振興を担う都道府県職員・公的機関
・総合型地域スポーツクラブの職員・マネージャー
・医療施設・健康づくり施設での健康運動指導者等

［令和 8 年度参考］

カリキュラム

科目区分		科目名	単位数
共通科目		Sports Academic English	②
専門科目	スポーツ科学研究分野	スポーツ医科学特殊研究	2
		スポーツ生理学特殊研究	2
		スポーツバイオメカニクス特殊研究	2
		アスレティックリハビリテーション特殊研究	2
		スポーツ栄養学特殊研究	2
		スポーツ心理学特殊研究	2
	生涯スポーツ学研究分野	生涯スポーツ学特殊研究	2
		スポーツ老年学特殊研究	2
		休養・睡眠学特殊研究	2
		健康運動科学特殊研究	2
		アクアフィットネス特殊研究	2
		冬季スポーツ指導特殊研究	2
研究指導		特別研究指導Ⅰ	④
		特別研究指導Ⅱ	④
		特別研究指導Ⅲ	④

備考　表中の○数字の単位は必修科目の単位数を示す。

生涯スポーツ学専攻博士後期課程スタッフ

山本 敬三 YAMAMOTO Keizo

副学長・教授※

担当科目
スポーツバイオメカニクス特殊研究、特別研究指導

PROFILE
1974年に山口県に生まれる。北海道大学へ入学し、2004年12月に北海道大学大学院工学研究科システム情報工学専攻にて博士後期課程を修了。博士（工学）。日本体育・スポーツ・健康学会、日本バイオメカニクス学会等の学会、冬季スポーツ科学研究会や臨床歩行分析研究会等に所属。2007年12月にオーストリアで行われた第4回国際スキー会議（ICSS2007）にて、「スキージャンプ・テイクオフ動作の空気力学的解析」を発表し、若手研究者賞（2位）を受賞。2017年に北海道科学技術奨励賞、2018年に日本バイオメカニクス学会賞を受賞。現在もスキージャンプを対象とした力学測定、流体解析の研究に積極的に取り組んでいる。また、バイオメカニクスに関する学術セミナーを行い、スポーツ指導者や若手研究者のサポート活動を積極的に行っている。

主な研究テーマ及び概要
冬季スポーツ種目を主な研究テーマとし、バイオメカニクスおよび流体力学的な手法でアプローチしている。派生的に、身体運動の左右対称性や運動学習に関する研究にも取り組んでいる。大学院博士課程の研究テーマでは、複数の学問分野にまたがる学際的な研究内容を推進したい。

小坂井 留美 KOZAKAI Rumi

生涯スポーツ学研究科長・教授※

担当科目
スポーツ老年学特殊研究、特別研究指導

PROFILE
名古屋大学大学院医学系研究科（健康社会医学専攻）。博士（医学）。国立長寿医療研究センター予防開発部予防疫学室長（2006-2009）。フィンランド・ユバスキュラ大学外来研究員（2009-2012）。健康運動指導士。日本体力医学会、日本体育・スポーツ・健康学会、日本老年医学会、日本老年社会科学会、日本公衆衛生学会、ヨーロッパスポーツ科学学会等所属。

主な研究テーマ及び概要
・中高年者における運動機能・身体活動量の加齢変化とその維持向上に関する研究
・高齢期の健康に関わる生涯における運動経験や家庭環境に関する研究
・高齢者における心身機能の低下予防に向けた実践的研究
・氷雪寒冷地域における老年学的課題についての研究
生涯を通じて人々が活動的であることを目指し、中高年者の身体機能や生活習慣を経年的に観察し関連要因を探索すること、運動の実践の効果を検証することを行っている。

井出 幸二郎 IDE Kojiro

博士後期課程専攻主任・教授※

担当科目
スポーツ生理学特殊研究、特別研究指導

PROFILE
1992年福岡大学体育学部卒業、1994年福岡大学大学院体育学研究科修了、1995年～2000年コペンハーゲン大学筋肉研究所、2001年～2004年カルガリー大学医学部呼吸生理学研究科、研究員。日本体力医学会、日本体育・スポーツ・健康学会、日本トレーニング科学会、アメリカ生理学会、日本トレーニング指導者協会、日本SAQ協会、会員。

主な研究テーマ及び概要
近年は吸入ガス濃度をコントロールする研究手法により、低酸素や高炭酸ガスに対する脳血管の反応性と体力との関連性について研究している。将来的には低酸素や高炭酸ガスに対する脳血管の反応性と加齢による認知機能の低下、体力との関連性についての研究に発展させる。本学には、簡易低酸素・高酸素トレーニング室及び高温トレーニング室があり、これらを用いた研究も可能である。現在用いている主な研究手法は、多チャンネル近赤外線分光装置、吸入ガス調整器、心拍変動（HRV）、認知心理学実験装置、血圧脈波検査装置、体温データロガー他。

沖田 孝一 OKITA Koichi

教授※

担当科目
スポーツ医科学特殊研究、特別研究指導

PROFILE
博士（医学）。旭川医科大学卒。主な資格：総合内科専門医、循環器専門医、日本スポーツ協会公認スポーツドクター、日本医師会認定健康スポーツ医、日本医師会認定産業医。所属学会など:日本臨床運動療法学会（副理事長）、米国生理学会、札幌市スポーツ協会（理事）、日本心臓リハビリテーション学会（評議員）、日本体力医学会（評議員）、日本臨床スポーツ医学会、米国スポーツ医学会、日本循環器病学会、日本内科学会など。

主な研究テーマ及び概要
「心不全における運動耐容能低下」をテーマに研究を開始し、「心不全に併発する骨格筋代謝異常の研究」を発展させ、一流国際医学雑誌であるCirculation（1998）、American Journal of Cardiology（1998）などに論文を掲載した。また「生活習慣病と運動療法」においてバイオマーカーを視点に運動療法の有効性を証明した論文をArterioscler Thromb Vasc Biol（2004）に掲載し、その業績を評価され、平成18年7月に日本心臓リハビリテーション学会第2回木村登賞を授与された。平成16年4月より教授として教育および健康医科学研究に従事し、多数の院生を指導、J Appl Physiol, Med Sci Sports Exercなどに複数の論文を掲載させるなど、優秀な人材を輩出している。現在は、大手製薬研究所とサプリメントの開発研究などを行っており、回復力、疲労耐性や運動能力向上に関する、機能性食品の併用を含めた統合的なスポーツ科学研究を展開している。

小田 史郎 ODA Shiro

教授※

担当科目
休養・睡眠学特殊研究、特別研究指導

PROFILE
北海道大学大学院教育学研究科博士後期課程修了。博士（教育学）。日本睡眠学会、日本体力医学会、日本生涯スポーツ学会、日本認知症予防学会、北海道体育学会所属。

主な研究テーマ及び概要
①良好な睡眠を得るための運動方法および生活処方に関する研究
②運動が睡眠を悪化させる条件に関する研究
③北方圏在住者の身体活動量と睡眠の季節差に関する研究
④北方圏在住者の季節性気分障害並びに生活習慣病に対する身体運動の有効性について
以上のテーマについて、生理学的実験と疫学調査から実証的に研究を進めている。生理学的実験では睡眠ポリグラフ（脳波、眼球運動、筋電図）や身体活動量（アクティグラフ、ライフコーダ）によって睡眠を客観的に評価し、さらに心拍数、心臓自律神経機能、体温、ホルモンといった関連データから、睡眠変化が生じたメカニズムについて追究している。疫学調査では質問紙法を用い、生活習慣病や季節性気分障害との関連性もふまえながら身体活動と睡眠の関係について研究している。

髙田 真吾 TAKADA Shingo

教授※

担当科目
健康運動科学特殊研究、特別研究指導

PROFILE
1985年に福島県に生まれる。北海道大学大学院医学研究科博士課程修了（成績優秀のため短縮修了）。博士（医学）。所属学会：日本体力医学会評議員、米国生理学会、米国スポーツ医学会、米国心臓病会議、日本循環器病学会、日本体力医学会、日本心臓リハビリテーション学会、国際心臓研究会日本部会、日本臨床運動療法学会。

主な研究テーマ及び概要
北海道大学大学院医学研究科にて「慢性疾患における運動能力・骨格筋異常とその治療法の開発」に関する研究を基礎・臨床の両面から発展させ、一流国際医学雑誌であるCirculation（2018）、Cardiovasc Research（2016, 2020）、Cell Communication & Signaling（2019）、Skeletal Muscle（2020）、Front Cardiovasc Med（2020）等に多数論文を掲載した。その業績を評価され、日本循環器学会、日本心臓リハビリテーション学会、日本体力医学会から多数の受賞および助成金を授与された。また、運動のトレーニング効果における「運動・筋収縮由来サイトカイン（マイオカイン）の役割や機序解明」を通じて、“human biology”の研究を展開する。

※研究指導教員　＊担当教員は予定であり、変更になることがあります。

竹田 唯史 TAKEDA Tadashi

教授※

担当科目
冬季スポーツ指導特殊研究、特別研究指導

PROFILE
北海道大学大学院教育学研究科博士後期課程単位取得退学。博士(教育学)。Asia Association of Coaching Science（理事)、日本スキー学会（理事)、日本体育・スポーツ・健康学会、日本コーチング学会、日本体育科教育学会。

主な研究テーマ及び概要
積雪寒冷圏域における冬季スポーツの普及・発展を目指し、国内外の最新の研究動向を把握し、競技者、一般愛好家など、対象者に応じた体力、技術分析・指導方法について研究する。特に、スキー、スノーボードなどの雪上スポーツを中心として研究を進めるとともに、他の生涯スポーツ種目の指導方法についても探求する。
・冬季スポーツ種目の普及と競技力向上に関する研究
・冬季スポーツ選手の体力特性に関する研究
・冬季スポーツ選手の技術分析に関する研究
・冬季スポーツ選手の指導方法に関する研究
・生涯スポーツ種目の指導方法・指導プログラムに関する研究
・生涯スポーツ種目のコーチングに関する研究

花井 篤子 HANAI Atsuko

教授

担当科目
アクアフィットネス特殊研究

PROFILE
立教大学社会学部卒業後、筑波大学大学院修士課程体育研究科（コーチ学専攻）を経て、筑波大学大学院博士課程体育科学研究科（体育科学専攻）修了。博士(体育科学)。日本水泳水中運動学会、日本体育・スポーツ・健康学会、日本体力医学会、日本生理人類学会、Biomechanics and Medicine in Swimming等所属。

主な研究テーマ及び概要
アクアフィットネスとは、水中運動、水治療法、水泳の3つに分類され、水を媒体として健康を維持増進させる概念である。研究概要はアクアフィットネスを軸に、国際的研究動向を分析把握した上で、応用健康科学的見地から、水の特性に基づいた氷雪寒冷圏域における健康運動の果たす役割について探求し、運動処方としてのあり方や新たな可能性について模索・考案する。最新のアクアフィットネス指導技術やその効果の測定・評価技術を習得することで、生理学的、心理的側面から高度な研究遂行に必要な課題設定能力と科学的分析能力を養成する。

吉田 昌弘 YOSHIDA Masahiro

教授

担当科目
アスレティックリハビリテーション特殊研究

PROFILE
札幌医科大学大学院保健医療学研究科理学療法学・作業療法学専攻スポーツ理学療法分野にて博士課程後期を修了。博士(理学療法学)。日本アスレティックトレーニング学会、日本臨床スポーツ医学会、日本整形外科スポーツ医学会、日本理学療法士協会などに所属。日本スポーツ協会公認アスレティックトレーナー、理学療法士の資格を有し、多くのスポーツ現場でアスリートのサポート活動に携わってきた。International Coaching Science Conference(2015)にて「足関節捻挫症例におけるホップ動作中の病態運動」を発表し、Best Poster Presentation Awardを受賞。現在はアスリートの安全な競技復帰の指標となる新たなフィールドテストの考案に関する研究を行っている。

主な研究テーマ及び概要
スポーツ外傷・障害からの安全な競技復帰を研究テーマとし、競技者のコンディションを定量的に評価することを目的とした研究を進めている。特に、フィールドレベルでの体力特性評価の実践や、疲労中に生じる筋活動や心拍数の変化の詳細について分析を行っている。大学院生の研究では、これらの研究成果をさらにアップデートし、様々な疾患を視野に入れた新たなコンディション評価方法の考案に関する研究を進めたい。

畝中 智志 UNENAKA Satoshi

准教授

担当科目
スポーツ心理学特殊研究

PROFILE
大阪府出身。鹿屋体育大学体育学部卒業後、鹿屋体育大学大学院体育学研究科修士課程（体育学；スポーツ心理学専攻）修了。特別支援学校常勤教諭を経て、鹿屋体育大学大学院体育学研究科博士後期課程（体育学；スポーツ心理学専攻）修了。博士（体育学)。杏林大学医学部統合生理学教室博士研究員（2015-2017)。日本スポーツ心理学会、日本スポーツメンタルトレーニング指導士会、日本体育・スポーツ・健康学会、日本バスケットボール協会所属。

主な研究テーマ及び概要
体育・スポーツ心理学を専門とし、研究を行っている。予測、身体性意識、運動学習、熟達化、知覚-運動制御などについて実験を行い、パフォーマンス向上に寄与する要因の解明、知覚トレーニングの考案を進めている。また、スポーツメンタルトレーニング指導士の資格を有し、スポーツ競技に関わる個人・チームへの心理サポートなどのフィールドレベルへの介入も行っている。

黒田 裕太 KURODA Yuta

准教授

担当科目
スポーツ栄養学特殊研究

PROFILE
2006年に鹿屋体育大学卒業後、スポーツ栄養学の道へ。2010年に天使大学を卒業。2019年に北海道大学大学院教育学院博士課程を修了（教育学)。資格は、中・高等学校教諭一種免許状（保健体育)、管理栄養士など。2011年より北海道テニス協会強化本部にてジュニア選手の強化事業に携わる。また、2018年は北海道日本ハムファイターズ主催の食育講座、2019年からは、日本テニス協会toto助成事業にて日本テニス協会医科学委員との共同でスポーツ栄養学の講師を務める。所属学会は、日本体力医学会、日本スポーツ栄養学会、日本テニス学会、日本スポーツパフォーマンス学会、日本栄養改善学会。

主な研究テーマおよび概要
アスリートおよび運動愛好者の競技パフォーマンスに貢献するためにスポーツ栄養学的観点から研究を実施している。アスリートおよび運動愛好者は、日常的に身体活動量が多い方が多い。身体活動量が多いと言うことは、そうでない人と比較して栄養素を多く摂取すること、その摂取量が適切かどうかを判断する必要がある。また、運動時には、体温上昇に伴い発汗が生じる。その発汗により身体から水分や栄養素が失われ、人間のパフォーマンス（脳活動や筋力など）に様々な負の影響を与える。その結果、運動時に競技パフォーマンスの低下を引き起こす可能性がある。これらの問題点の改善に貢献できるような知見をスポーツ現場へ還元することを目的としている。

※研究指導教員　＊担当教員は予定であり、変更になることがあります。

入 学 試 験 要 項〈博士後期課程〉

募集研究科・専攻・人員・修業年限

研究科	専攻	人員	修業年限	備考
生涯スポーツ学研究科	生涯スポーツ学専攻 博 士 後 期 課 程	3 名	3 年	＊人員には社会人特別選抜入学制度による若干名を含みます。

【1】各種入学制度

1. 一般試験入学制度

（1）出願資格

次のいずれかに該当する者

①修士の学位又は専門職学位を有する者

②外国において修士の学位又は専門職学位に相当する学位を授与された者

③外国の学校が行う通信教育における授業科目を我が国において履修し、修士の学位又は専門職学位に相当する学位を授与された者

④我が国において、外国の大学院の課程を有するものとして当該外国の学校教育制度において位置付けられた教育施設であって、文部科学大臣が別に指定するものの当該課程を修了し、修士の学位又は専門職学位に相当する学位を授与された者

⑤大学院の入学に関し修士の学位を有する者と同等以上の学力があると認められる者の指定（平成元年 9 月 1 日文部科学省告示第 118 号）で文部科学大臣が指定した者

⑥本研究科において、個別の入学資格検査により、修士の学位又は専門職学位を有する者と同等以上の学力があると認めた者で、令和 9 年 3 月 31 日までに 24 歳に達する者

＊⑥に該当する者は、出願資格認定審査が必要となります（P25 の【6】出願資格認定審査参照）。

（2）出願期間・選抜試験日・合格発表日・入学手続締切日

期	インターネット出願期間	出願書類必着日	選抜試験日	合格発表日	第 1 次入学手続締切日 （入学金）	第 2 次入学手続締切日 （入学金以外の納付金・手続書類）
第 1 期	令和 8 年 9 月 16 日（水）～ 10 月 6 日（火）	10 月 7 日（水）	10 月 18 日（日）	11 月 1 日（日）	12 月 17 日（木）	令和 9 年 3 月 24 日（水）
第 2 期	令和 9 年 1 月 18 日（月）～ 2 月 7 日（日）	2 月 8 日（月）	2 月 21 日（日）	3 月 7 日（日）	3 月 24 日（水）	

第 1 期で募集人員を満たした場合、第 2 期は実施しないことがありますので、事前にアドミッションセンターにお問い合わせください。

（3）選抜方法および基準

英語能力と口述試験結果を総合評価し、合否を判定します。

科 目	内 容	配 点
英語	TOEICまたはTOEFLのスコアで英語能力を評価します。	100点
口述試験	研究計画書に基づくプレゼンテーション（20分）と質疑応答（25分）により、研究遂行能力、スポーツ・健康に関する学術研究並びに科学的知識や専門的技能を評価します。パワーポイントでプレゼンテーション用の資料を作成し、配付資料（2スライド／ページ）を3部持参してください。試験当日はノートパソコンを各自持参してください。	100点

（4）選抜試験日程

選抜試験日程	時間
諸注意・連絡	9：20 ～ 9：30
口述試験（終了次第解散）	9：30 ～

（5）出願手続

出願方法	インターネット出願 本学ホームページ受験生サイト（https://www.hokusho-u.ac.jp/admission/）のインターネット出願ページ（Post@net）から出願登録をしてください。
入学検定料	30,000 円 入学検定料は、出願登録時に選択した方法で納入してください（振込手数料は別途必要です）。 可能な支払方法 ①「コンビニエンスストア決済」 ②「クレジットカード決済」 ※支払方法の詳細は P28～をご確認ください。 ※本学卒業生、本学大学院修士課程修了生および修了見込者ならびに本学卒業生子女の方は免除します。出願前にアドミッションセンターまでお申し出ください。

出願書類	①入学志願票 ・本学インターネット出願ページ（Post@net）より各自で印刷し郵送してください。 ②写真データ ・3 ヶ月以内に撮影したものを本学インターネット出願ページ（Post@net）からアップロードしてください。 ③成績証明書 ④卒業（修了）証明書または卒業（修了）見込証明書 ⑤履歴書 ・本学受験生サイトから本大学院所定の用紙をダウンロードし、入力後印刷の上、郵送してください。 ⑥英語能力証明書 いずれかひとつの結果の公的証明書 ・TOEIC® LISTENING AND READING テスト 公式認定証を提出してください。 ・TOEFL iBT® テスト ご自身のアカウントからダウンロードした PDF を印刷し、提出してください。 ※2027 年 1 月受験者は、受験票のコピーを提出してください。 ※いずれのスコアも出願期間開始日から起算して過去 2 年以内を有効とします。 ⑦研究計画書 ・本学受験生サイトから本大学院所定の用紙をダウンロードし、入力後印刷の上、郵送してください。 ・研究の背景と目的、研究方法・計画、期待される成果、引用文献を入力してください。 ・必ず出願前に指導予定教員に連絡を取り、受験と入学後の計画についてよく相談してください。連絡先がわからない場合は、アドミッションセンター（info@hokusho-u.ac.jp）にご連絡ください。 ⑧研究業績 ・業績一覧：これまでの研究業績リストを A4 サイズで作成してください。 ・上記の研究業績のうち、主要なもの 5 点以内を添付してください（コピー可）。 ⑨長期履修申請書 ・長期履修制度を希望する方は、本学受験生サイトから「長期履修申請書」を印刷し、記入の上、郵送してください。（P26 の【7】長期履修制度参照） ※③および④は、出願資格として該当する学歴の証明書を郵送してください。 ※③および④の書類の氏名が、改姓等により現在の氏名と異なる場合は、改姓の事実が証明できる書類を郵送してください。

2. 社会人特別選抜入学制度

（1）出願資格

次のいずれかに該当し、入学時点で 2 年（24 か月）以上の社会人経験を有する者。ただし、修士課程に在学している期間は含まない。

①修士の学位又は専門職学位を有する者

②外国において修士の学位又は専門職学位に相当する学位を授与された者

③外国の学校が行う通信教育における授業科目を我が国において履修し、修士の学位又は専門職学位に相当する学位を授与された者

④我が国において、外国の大学院の課程を有するものとして当該外国の学校教育制度において位置付けられた教育施設であって、文部科学大臣が別に指定するものの当該課程を修了し、修士の学位又は専門職学位に相当する学位を授与された者

⑤大学院の入学に関し修士の学位を有する者と同等以上の学力があると認められる者の指定（平成元年 9 月 1 日文部科学省告示第 118 号）で文部科学大臣が指定した者

⑥本研究科において、個別の入学資格検査により、修士の学位又は専門職学位を有する者と同等以上の学力があると認めた者で、令和 9 年 3 月 31 日までに 24 歳に達する者

＊社会人の方の科目開講や研究指導の時間については、勤務状況に合わせて個別に対応します。

＊⑥に該当する者は、出願資格認定審査が必要となります（P25 の【6】出願資格認定審査参照）。

（2）出願期間・選抜試験日・合格発表日・入学手続締切日

期	インターネット出願期間	出願書類必着日	選抜試験日	合格発表日	第 1 次入学手続締切日（入学金）	第 2 次入学手続締切日（入学金以外の納付金・手続書類）
第 1 期	令和 8 年 9 月 16 日（水）～ 10 月 6 日（火）	10 月 7 日（水）	10 月 18 日（日）	11 月 1 日（日）	12 月 17 日（木）	令和 9 年 3 月 24 日（水）
第 2 期	令和 9 年 1 月 18 日（月）～ 2 月 7 日（日）	2 月 8 日（月）	2 月 21 日（日）	3 月 7 日（日）	3 月 24 日（水）	

第 1 期で募集人員を満たした場合、第 2 期は実施しないことがありますので、事前にアドミッションセンターにお問い合わせください。

（3）選抜方法および基準

英語能力と口述試験結果を総合評価し、合否を判定します。

科　目	内　容	配　点
英語	TOEICまたはTOEFLのスコアで英語能力を評価します。	100点
口述試験	研究計画書に基づくプレゼンテーション（20分）と質疑応答（25分）により、研究遂行能力、スポーツ・健康に関する学術研究並びに科学的知識や専門的技能を評価します。パワーポイントでプレゼンテーション用の資料を作成し、配付資料（2スライド／ページ）を3部持参してください。試験当日はノートパソコンを各自持参してください。	100点

（4）選抜試験日程

選抜試験日程	時間
諸注意・連絡	9：20 ～ 9：30
口述試験（終了次第解散）	9：30 ～

（5）出願手続

出願方法	インターネット出願 本学ホームページ受験生サイト（https://www.hokusho-u.ac.jp/admission/）のインターネット出願ページ（Post@net）から出願登録をしてください。
入学検定料	30,000 円 入学検定料は、出願登録時に選択した方法で納入してください（振込手数料は別途必要です）。 可能な支払方法　①「コンビニエンスストア決済」 ②「クレジットカード決済」 ※支払方法の詳細は P28～をご確認ください。 ※本学卒業生、本学大学院修士課程修了生および修了見込者ならびに本学卒業生子女の方は免除します。出願前にアドミッションセンターまでお申し出ください。

出願書類	①入学志願票 ・本学インターネット出願ページ（Post@net）より各自で印刷し郵送してください。 ②写真データ ・3 ヶ月以内に撮影したものを本学インターネット出願ページ（Post@net）からアップロードしてください。 ③成績証明書 ④卒業（修了）証明書または卒業（修了）見込証明書 ⑤履歴書 ・本学受験生サイトから本大学院所定の用紙をダウンロードし、入力後印刷の上、郵送してください。 ⑥英語能力証明書 いずれかひとつの結果の公的証明書 ・TOEIC® LISTENING AND READING テスト 公式認定証を提出してください。 ・TOEFL iBT® テスト ご自身のアカウントからダウンロードした PDF を印刷し、提出してください。 ※2027 年 1 月受験者は、受験票のコピーを提出してください。 ※いずれのスコアも出願期間開始日から起算して過去 2 年以内を有効とします。 ⑦研究計画書 ・本学受験生サイトから本大学院所定の用紙をダウンロードし、入力後印刷の上、郵送してください。 ・研究テーマ、研究目的、研究課題に至った経緯、研究計画、引用文献等を入力してください。 ・必ず出願前に指導予定教員に連絡を取り、受験と入学後の計画についてよく相談してください。連絡先がわからない場合は、アドミッションセンター（info@hokusho-u.ac.jp）にご連絡ください。 ⑧研究業績 ・業績一覧：これまでの研究業績リストを A4 サイズで作成してください。 ・上記の研究業績のうち、主要なもの 5 点以内を添付してください（コピー可）。 ⑨所属長の承諾書 ・本学受験生サイトから所定の用紙をダウンロードし、記入の上、郵送してください。 ⑩長期履修申請書 ・長期履修制度を希望する方は、本学受験生サイトから「長期履修申請書」を印刷し、記入の上、郵送してください。（P26 の【7】長期履修制度参照） ※③および④は、出願資格として該当する学歴の証明書を郵送してください。 ※③および④の書類の氏名が、改姓等により現在の氏名と異なる場合は、改姓の事実が証明できる書類を郵送してください。

【2】出願上の注意

①出願書類は、出願書類必着日までに届くよう郵便局の窓口から「速達・簡易書留」で郵送してください。
②出願後の志望専攻の変更はできません。
③出願書類はいかなる場合も返還しません。
④不備・不足のある場合は受け付けできませんので、出願書類の確認は十分行ってください。

【3】受験票について

①受験票は、本学インターネット出願ページ（Post@net）へログインし、出願内容一覧より本学の「出願内容を確認」からダウンロードし、各自で印刷して選抜試験日に持参してください。
※受験票の発行は出願書類必着日以降になります。受験票を発行しましたら、メールにてお知らせします。なお、出願者全員の受験票を一括で発行するため、時間を要する場合がございます。
②選抜試験日までに準備できない場合は、アドミッションセンターまでお問い合わせください。

【4】受験上の注意

①試験会場は北翔大学です。アクセス、および案内図は、裏表紙を参照してください。
②試験会場の下見は、選抜試験前日の 12:00～15:00 までです。
③受付時間は、8:30 から開始します。
④試験開始後 30 分以上遅刻した場合は、原則として受験できません。
⑤学校保健安全法施行規則で出席停止が定められている感染症（インフルエンザ、新型コロナウイルス感染症等）にかかり、試験当日までに学校保健安全法施行規則による出席停止期間を経過していない方は受験をご遠慮ください。また、試験当日の体調不良により、試験の続行が困難であると本学が判断した場合、試験を中断することがあります。体調管理には十分ご注意ください。

【5】合格発表日

①選抜の結果は、合否にかかわらず本人宛に文書で通知します。
また、インターネット出願ページ（Post@net）から合否結果を照会することができます。
②大学内掲示・ホームページでの発表はいたしません。電話・メールでのお問い合わせには応じておりません。
③入学手続者の状況により、繰上げ合格を認めることがあります。対象者には、合否通知の際に補欠番号を通知します。
④合否通知は、天候等により遅れる場合があります。
⑤合格通知とともに入学手続書類を送付します。必要な書類を提出し、学費等納付金を期日までに納入してください。

【6】出願資格認定審査

各種入学制度の出願資格において、本大学院の認定を必要とする方は、出願に先立ち事前に出願資格の認定審査を行います。出願資格認定審査申請書を希望する方は、アドミッションセンターへ申請前にお問い合わせください。

申請期間／第 1 期：令和 8 年　8 月 18 日（火）～　8 月 26 日（水）
　　第 2 期：令和 8 年 11 月 17 日（火）～ 11 月 25 日（水）
提 出 先／北翔大学 アドミッションセンター
提出書類／①出願資格認定審査申請書
　　②最終出身学校の卒業証明書および成績証明書
＊②の書類の氏名が、改姓等により現在の氏名と異なる場合は、改姓の事実が証明できる書類の提出が必要です。
＊提出書類はいかなる場合も返還しません。
結果通知／第 1 期：令和 8 年　9 月 11 日（金）
　　第 2 期：令和 8 年 12 月 11 日（金）

【7】長期履修制度

長期履修制度とは、職業を有している等の事情により、定められた修業年限では大学院の教育課程の履修が困難な者に限り、標準修業年限３年間を超え、４年間、５年間または６年間で修学するものです。
本制度の授業料と施設設備費は、一般学生３年間の総額を履修期間が認められた期間で除した金額です。差額が生じる場合は、最終年次で調整いたします。（下記の【9】納付金参照）
希望する方は、本学受験生サイトから「長期履修申請書」を印刷し、記入の上、出願書類とともに提出してください。

【8】入学検定料の返還について

入学検定料の返還ができるのは、次の３つの場合です。出願が受理されている場合は、払込済の入学検定料は返還しません。

1. 入学検定料を払い込んだが、出願しなかった（出願書類等を提出しなかった）場合
2. 入学検定料を払い込んだが、出願が受理されなかった場合
3. 入学検定料を二重に払い込んだ場合

なお、返還に伴う振込手数料は差し引かせていただきます。

【9】納付金

令和９年度１年次学費

入学制度	専攻	内訳	前学期 入学手続時	後学期 ９月30日	初年度合計
一般試験	生涯スポーツ学専攻 （一般学生３年）	入　学　金	200,000円	-円	200,000円
		授　業　料	260,000円	260,000円	520,000円
		施設設備費	50,000円	50,000円	100,000円
		合計	510,000円	310,000円	820,000円
	生涯スポーツ学専攻 （長期履修学生４年）	入　学　金	200,000円	-円	200,000円
		授　業　料	195,000円	195,000円	390,000円
		施設設備費	37,500円	37,500円	75,000円
		合計	432,500円	232,500円	665,000円
	生涯スポーツ学専攻 （長期履修学生５年）	入　学　金	200,000円	-円	200,000円
		授　業　料	156,000円	156,000円	312,000円
		施設設備費	30,000円	30,000円	60,000円
		合計	386,000円	186,000円	572,000円
	生涯スポーツ学専攻 （長期履修学生６年）	入　学　金	200,000円	-円	200,000円
		授　業　料	130,000円	130,000円	260,000円
		施設設備費	25,000円	25,000円	50,000円
		合計	355,000円	155,000円	510,000円
社会人特別選抜	生涯スポーツ学専攻 （一般学生３年）	入　学　金	100,000円	-円	100,000円
		授　業　料	130,000円	130,000円	260,000円
		施設設備費	25,000円	25,000円	50,000円
		合計	255,000円	155,000円	410,000円
	生涯スポーツ学専攻 （長期履修学生４年）	入　学　金	100,000円	-円	100,000円
		授　業　料	97,500円	97,500円	195,000円
		施設設備費	18,800円	18,800円	37,600円
		合計	216,300円	116,300円	332,600円
	生涯スポーツ学専攻 （長期履修学生５年）	入　学　金	100,000円	-円	100,000円
		授　業　料	78,000円	78,000円	156,000円
		施設設備費	15,000円	15,000円	30,000円
		合計	193,000円	93,000円	286,000円
	生涯スポーツ学専攻 （長期履修学生６年）	入　学　金	100,000円	-円	100,000円
		授　業　料	65,000円	65,000円	130,000円
		施設設備費	12,500円	12,500円	25,000円
		合計	177,500円	77,500円	255,000円

○本学大学院修士課程修了生および修了見込者、本学卒業生の入学金は免除になります。
○長期履修学生の授業料と施設設備費は、一般学生３年間の総額を長期履修が認められた期間で除した金額です。差額が生じる場合は、最終年次で調整いたします。
○２年次以降の学費は、初年度学費合計から入学金を除いた金額となりますが、経済情勢などの変動により改定されることがあります（社会人特別選抜入学制度は、令和９年度以降も改定しません）。
○本学以外から入学された大学院生で下記に該当する場合は、学費等の一部を入学後の申請により返還いたします（社会人特別選抜入学制度で入学する者の同窓会費は対象外です）。
・本学卒業生の子息・息女、兄弟姉妹、孫、父母の入学金の全額、および同窓会費の半額
・本学在学生の兄弟姉妹、父母、子息・息女の入学金の全額、および同窓会費の半額
・兄弟姉妹が本学に同時に入学した場合は、一人分を除いた入学金の全額、および一人分を除いた同窓会費の半額
＊本学とは北翔大学、北翔大学大学院および北翔大学短期大学部です（旧名称も含みます）。

○その他の経費

		学生教育研究災害傷害保険料および学研災付帯賠償責任保険料	同窓会費（終身）	合計
一般試験	一 般 学 生（3 年）	3,620 円（3 年間分）	40,000 円	43,620 円
	長期履修学生（4 年）	4,660 円（4 年間分）	40,000 円	44,660 円
	長期履修学生（5 年）	5,750 円（5 年間分）	40,000 円	45,750 円
	長期履修学生（6 年）	6,740 円（6 年間分）	40,000 円	46,740 円
社会人特別選抜	一 般 学 生（3 年）	3,620 円（3 年間分）	20,000 円	23,620 円
	長期履修学生（4 年）	4,660 円（4 年間分）	20,000 円	24,660 円
	長期履修学生（5 年）	5,750 円（5 年間分）	20,000 円	25,750 円
	長期履修学生（6 年）	6,740 円（6 年間分）	20,000 円	26,740 円

＊本学大学院修士課程修了生および修了見込者、本学卒業生は、同窓会費を納付する必要はありません。

■学生教育研究災害傷害保険及び学研災付帯賠償責任保険の保険金額

補償区分及び保険金額		教育研究活動中	
		正課中・学校行事中	課外活動・学校施設間移動・学校施設にいる間・通学特約
傷害保険（本人）	死亡	2,000 万円	1,000 万円
	後遺障害	程度に応じて 120 万～3,000 万円	程度に応じて 60 万～1,500 万円
	入院日額（1 日につき）	4,000 円（180 日を限度）	
	通院（治療日数）	治療日数 1 日から対象	・学校施設にいる間／通学中／学校施設間移動　4 日以上 ・課外活動（クラブ活動）　14 日以上
		治療日数とは実際に入院または通院した日数	
賠償責任保険学生	（被保険者）が他人にケガを負わせた場合、他人の財物を損壊した場合等により、法律上の損害賠償責任を負担することによって被る損害に対する補償（対人と対物賠償合わせて 1 事故につき 1 億円限度）		

＊学生教育研究災害傷害保険（学研災）および学研災付帯賠償責任保険は、入学時の加入により、保険期間中に生じた教育研究活動中の不慮の事故による傷害や損害賠償について、上記の保険金が支払われる制度です。ただし、状況によっては保険金の支払い対象にならない場合があります。

【10】入学手続締切日

期	第 1 次入学手続締切日（入学金）	第 2 次入学手続締切日（入学金以外の納付金・手続書類）
第 1 期	令和 8 年 12 月 17 日（木）	令和 9 年 3 月 24 日（水）
第 2 期	令和 9 年 3 月 24 日（水）	

＊既納の入学金は返還しません。
＊第 2 次入学手続締切後に入学を辞退する場合は、所定の入学辞退届により申し出てください。申し出の期限は令和 9 年 3 月 31 日（水）午後 5 時までとします。この申し出が受理された後、既に納付された令和 9 年度 1 年次前学期納付金のうち入学金を除いた金額を返還します（令和 9 年 4 月末日予定）。

インターネット出願について

インターネット出願の流れ

STEP 1 出願に必要な書類などを準備 ➡ STEP 2 アカウント作成、出願登録を行う ➡ STEP 3 入学検定料のお支払い ➡ STEP 4 出願書類の郵送 ➡ STEP 5 受験票の印刷 ➡ STEP 6 受験

STEP 1 出願に必要な書類などを準備

各選抜制度により、必要な書類が異なります。出願に必要な書類に関しては、各選抜制度ページを確認してください。送付する前に、必ず必要な書類の確認欄をチェックしてください。

※△は該当者のみの提出となります。

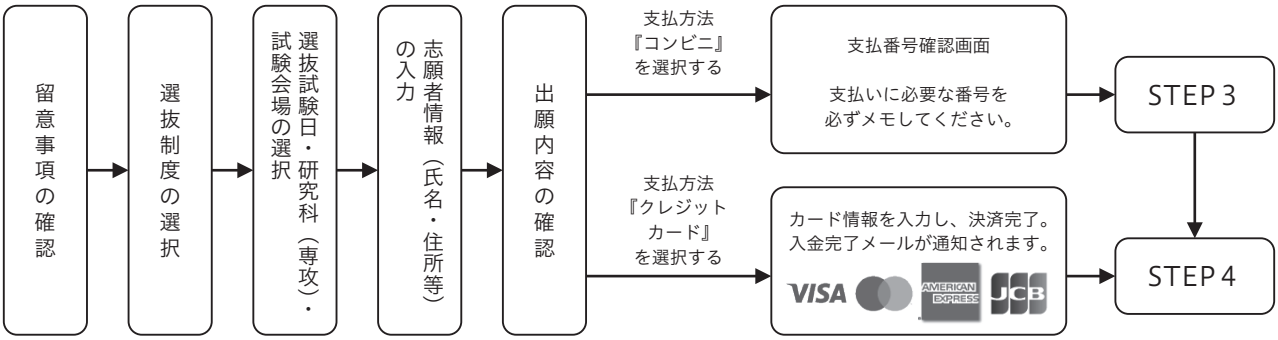
出願書類＼選抜制度	修士課程			博士後期課程	
	一般試験	社会人特別選抜	外国人留学生特別選抜	一般試験	社会人特別選抜
入学志願票	□	□	□	□	□
成績証明書	□	□	□	□	□
卒業(修了)証明書または卒業(修了)見込証明書	□	□	□	□	□
履歴書	□	□	□	□	□
研究計画書	□	□	□	□	□
長期履修申請書	△	△	—	△	△
所属長の推薦書	—	□	—	—	—
出願前にアドミッションセンターまで連絡(外国人留学生特別選抜のみ)	—	—	□	—	—
英語能力証明書	—	—	—	□	□
研究業績	—	—	—	□	□
所属長の承諾書	—	—	—	—	□

STEP 2 アカウント作成、出願登録を行う

[アカウント作成] 下記手順に従ってアカウントの作成をしてください。
①本学受験生サイトにアクセスしてください。https://www.hokusho-u.ac.jp/admission/
②「インターネット出願について」をクリックし、「インターネット出願登録はコチラから」よりインターネット出願ページ（Post@net）を開きます。
③Post@net のログイン画面（右の画像）より「新規登録」ボタンをクリックしてください。
④利用規約に同意した後、メールアドレス・パスワードなど必要項目を入力して「登録」ボタンをクリックしてください。
⑤入力したメールアドレス宛に、仮登録メールが届きます。
※携帯メールの場合はドメイン（@hokusho-u.ac.jp、@postanet.jp）を受信指定してください。
⑥仮登録メールの受信から 60 分以内にメール本文のリンクをクリックして、登録を完了させてください。
⑦ログインの際には、登録したメールアドレスに認証コードが届きますので、入力しログインしてください。
※Post@net（受験生向けポータルサイト）の操作方法が分からない方は、よくあるご質問からお問い合わせが可能です。選抜制度に関するご質問はアドミッションセンターへお問い合わせください。

[ログイン] 下記手順に従ってログインし、お気に入り学校の登録をしてください。
①メールアドレス・パスワードを入力して「ログイン」ボタンをクリックすると、登録したメールアドレスに認証コードが届きますので、入力しログインしてください。
②「学校一覧」から「北翔大学大学院」を検索してください。

[出願登録]『エントリー・出願』ボタンをクリック後、画面の指示に従って登録してください。



POINT① 志願者情報の入力・確認画面では、必ず入力した内容(特に生年月日・電話番号・住所)に誤りがないか、十分に確認してください。志願者情報の確認画面を過ぎると内容の変更ができません。

POINT② 支払い方法『コンビニ』の場合は、支払番号確認画面に支払いに必要な番号が表示されます。STEP 3の支払い時に必要ですので必ずメモしてください。

STEP 3 入学検定料のお支払い（コンビニを選択した場合のみ）

要注意

出願登録した翌日の23:59まで（出願登録期限日に出願登録した場合は当日の23:59まで）に、下記の通り入学検定料をお支払いください。上記の支払い期限を過ぎますと、登録された内容での入学検定料支払いができなくなります。

■コンビニ

お支払いになるコンビニによって操作方法が異なりますので、「学校一覧」より本学を選択し、「はじめに」ページにある「入学検定料のお支払い方法について」を参照の上、必要な情報のメモ等をし、支払い期限までに入学検定料を支払ってください。

■払込手数料

入学検定料が2万5千円以上	1,000円（税込）

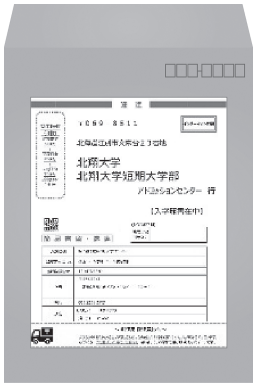
・入学検定料の他に別途、払込手数料が必要です。
・一度納入した入学検定料は、理由の如何にかかわらず返金しません。
・入学検定料支払いの領収書は提出不要です。控えとして保管してください。

STEP 4 出願書類の郵送

①入学検定料の支払い後に届く、「インターネット出願　支払完了」メール記載のURL、または本学インターネット出願ページ（Post@net）へログインし、出願内容一覧より本学の「出願内容を確認」を選択し、入学志願票、封筒貼付用宛名シートをダウンロードし、ページの拡大・縮小はせずにA4サイズで印刷してください。

②市販の角2封筒の表面に、封筒貼付用宛名シートを貼ってください。裏面には郵送書類チェックリストを貼り、必要書類が間違いなく準備されているかチェックしてから封入・郵送してください。

③印刷した入学志願票と必要書類を同封して郵便窓口から速達・簡易書留で郵送してください。



要注意

STEP１～STEP４を、すべて期限内に完了することによって、出願が正式に受理され、受験票が発行されます。
（出願登録・入学検定料支払い・出願書類提出のいずれかが行われなかった場合は、出願が受け付けられません。）
※出願の期限については、「出願期間」を十分に確認の上、できるだけ余裕をもって出願してください。

【送付先】
〒069-8511
北海道江別市文京台23番地

北翔大学　アドミッションセンター　行
入学願書在中

STEP 5 受験票の印刷

受験票は、本学インターネット出願ページ（Post@net）へログインし、出願内容一覧より本学の「出願内容を確認」から各自印刷し、選抜試験日に持参してください。
選抜試験日までに準備できない場合は、アドミッションセンター（TEL.011-387-3906）までお問合せください。

※受験票の発行は出願書類必着日以降になります。受験票を発行しましたら、メールにてお知らせします。なお、出願者全員の受験票を一括で発行するため、時間を要する場合がございます。

STEP 6 受験

選抜試験当日は必ず受験票を印刷し、持参してください。

障害のある入学志願者の合理的配慮の申し出

この申し出は、受験および修学上の合理的配慮に関する状況を把握するためのものです。

下記の表に該当する方、および健康上の理由により修学等において合理的配慮を必要とする方は、出願する選抜制度の出願受付開始日の1ヶ月前までにアドミッションセンターへ必ずお申し出ください。

なお、合理的配慮を申し出る場合は、障害者手帳の写し、または現症の程度に関する医師の意見書等の提出が必要となります。やむを得ない事情により提出ができない場合には、お早めにご相談ください。

〔TEL.011-387-3906（直通）〕

区分	障害の程度
視覚障害*	両眼の矯正視力がおおむね0.3未満のもの、または視力以外の視機能障害が高度なもののうち、拡大鏡などの使用によっても通常の文字、図形などの視覚による認識が不可能、または著しく困難な程度のもの。
聴覚障害*	両耳の聴力レベルがおおむね60デシベル以上のもののうち、補聴器などの使用によっても通常の話声を解することが不可能、または著しく困難な程度のもの。
肢体不自由*	肢体不自由の状態が補装具の使用によっても歩行、筆記など日常生活における基本的な動作が不可能、または困難な程度のもの。
病弱*	1．慢性の呼吸器疾患、腎臓疾患および神経疾患、悪性新生物その他の疾患の状態が継続して医療、または生活規制を必要とする程度のもの。 2．身体虚弱の状態が継続して生活規制を必要とする程度のもの。
発達障害	自閉スペクトラム症（ASD）、注意欠如・多動症（ADHD）、限局性学習症（読み、書き、計算などといった作業が困難であり、日常生活および修学における基本的な作業が困難なもの）などといった障害のために、一定時間の集中や集団での活動などが困難なもの。
その他	上記以外で受験および修学上、合理的配慮を必要とする程度の機能障害を有するもの。

＊学校教育法施行令第22条の3の規定に準拠した。

外国の国籍を有する方の出願書類

外国籍を持ち、外国の学校教育において所定の課程を修めた外国人志願者の出願書類につきましては、次のとおり、追加資料の提出が必要となりますので本学アドミッションセンターまでお問い合わせください。〔TEL.011-387-3906（直通）〕

①外国の学校教育による16年の課程に関する証明書

卒業（修了）証明書または卒業（修了）見込み証明書、および成績証明書の原本（出身学校長の署名があるもの）および日本語訳を提出してください。日本語訳には日本語学校または翻訳会社等による翻訳証明を添付してください。

②身元保証書（本学所定の用紙）

日本国内に在籍全期間を通して身元保証人がいることを証明してください。身元保証書は、日本在住の身元保証人が記入し、署名・押印したものを提出してください。

③在留資格を証明する書類

出入国管理、および難民認定法において、大学入学に支障のない在留資格を有すること、または入学時に「留学」の在留資格を取得してください。すでに日本に居住している場合は住民票原本を提出してください。

④財務能力証明書

学費および生活費等を支払うことができる証明として、本人または経費支弁者の銀行残高証明書（外国の銀行の場合は英語版）を提出してください。

⑤履歴書（本学所定の用紙）

⑥N1日本語能力認定書

⑦在留カードのカラーコピー（志願者が日本国内に在住している場合）

⑧旅券（パスポート）のカラーコピー（現在有効で記載内容・顔写真が鮮明であるもの）

⑨その他　本学が提出を必要とした書類（母国の政府・在日公館・医療機関が発行する書類など）

※必要とされた場合は改めて連絡となります。

その他

（1）出願資格および入学資格について

出願の際に入力した情報および本学に提出した出願書類に偽造・虚偽の記載があった場合、試験時間中に不正行為があった場合、本学における退学処分等に該当するような非違行為が発覚した場合は、次のとおり対応します。また、出願時に在籍している学校等を「卒業見込み」「修了見込み」で受験した者で、令和9年3月31日までに卒業や修了することができなかった場合も同様の対応をいたします。

a．合格発表までに発覚した場合

出願資格を取り消します。提出された書類・資料等および入学検定料は返還しません。

b．合格発表後に発覚した場合

合格および入学資格を取り消します。提出された書類・資料等および入学検定料は返還しません。

（2）免許状・資格等の取得および実習について

「こども性暴力防止法」が2026年12月25日に施行されます。この法律により、学校や保育所、学習塾など、こどもに対して教育・保育などを行う事業者には、性暴力を防ぐための取組が求められ、実習生やボランティア学生などについても性犯罪前科の有無の確認が求められる場合があります。

●性犯罪前科があると確認された者は、こどもと接する実習等ができないこととなります。

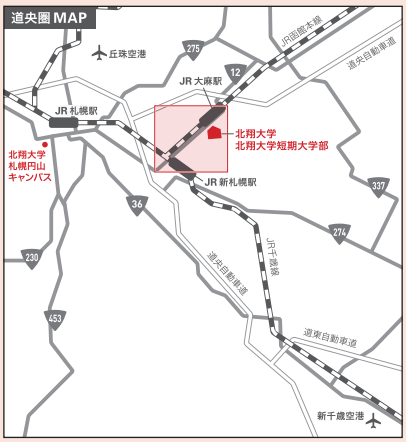
●性犯罪前科がある場合、実習ができないことにより教育職員免許状・保育士資格等の取得要件を満たすことができません。

●本件に関する「同意書」及び性犯罪前科がない旨の「誓約書」を提出していただきます。

制度の詳細については、こども家庭庁のホームページをご確認ください。

北翔大学大学院

〒069-8511　北海道江別市文京台23番地
TEL 011-386-8011（代）　FAX 011-387-3739
www.hokusho-u.ac.jp　info@hokusho-u.ac.jp



●札幌駅からのアクセス

JR 札幌駅 ― JR函館本線 普通で約15分 ― JR 大麻駅 ― 徒歩 約15分 ― 北翔大学

●新千歳空港からのアクセス

JR 新千歳空港駅 ― JR千歳線 快速で約30分 ― JR 新札幌駅［新札幌バスターミナル直結］ ― JRバス・夕鉄バス ※詳しくは右の図を参照 ― 北翔大学前・札学院大前 ― 徒歩 約3分 ― 北翔大学

●新札幌からのアクセス

JR 新札幌駅［新札幌バスターミナル直結］ ― JRバス・夕鉄バス ※詳しくは右の図を参照 ― 北翔大学前・札学院大前 ― 徒歩 約3分 ― 北翔大学

●小樽からのアクセス

JR 小樽駅 ― JR函館本線 快速で約60分／普通で約1時間15分 ― JR 大麻駅 ― 徒歩 約15分 ― 北翔大学

●苫小牧からのアクセス

JR 苫小牧駅 ― JR千歳線 特急で約40分 ― JR 新札幌駅［新札幌バスターミナル直結］ ― JRバス・夕鉄バス ※詳しくは右の図を参照 ― 北翔大学前・札学院大前 ― 徒歩 約3分 ― 北翔大学

新札幌からバスでのアクセスについて

新札幌バスターミナル（北レーン）

9　**10**　11　**12**　13　14　15

「北レーン 10・12 番のりば」のいずれかから乗車してください。
平日は 10〜15 分に一本の割合で発車しています。

10 JRバス（所要時間約10分）

- ［循環新82］新札幌駅行 文京台線
- ［循環新83］新札幌駅行 文京台線
- ［ 新　24 ］大麻11丁目行 大麻団地線
- ［ 新　24 ］道立図書館前行 大麻団地線
- ［ 新　26 ］江別駅行 江別線
- ［ 新　26 ］野幌駅北口行 江別線
- ［ 新　29 ］情報大学前行 野幌運動公園線
- ［ 新　29 ］野幌運動公園行 野幌運動公園線

12 夕鉄バス（所要時間約10分）

- 新札幌駅〜文京台南町 行き　・あけぼの団地 行き
- 南幌東町 行き　など

※表示の所要時間はあくまで目安ですので時間にゆとりをもって交通機関をご利用ください。